

# きらり

令和6年度（第15集）  
～実践と研究のあゆみ～

## 研究主題

肢体不自由及び病弱教育の主体的・対話的で深い学びの授業づくり

～単元（題材）構想シートを用いたチームで取り組む授業改善～



秋田県立秋田きらり支援学校

## 巻 頭 言

今年度、本校は研究主題を「肢体不自由及び病弱教育の主体的・対話的で深い学びの授業づくり～単元（題材）構想シートを用いてチームで取り組む授業改善～」と設定し、研究及び授業実践に日々取り組んできました。2か年にわたる研究の1年目昨年度は、副題を「単元（題材）構想シートと自立活動の視点を生かして」とし、単元構想シートと自立活動シートの二つの活用に力を入れ、授業づくりのツールとしてその有効性を確認しました。2年目は、副題を「チームで取り組む授業改善」に一部変更し、チームとしての取組に重点をおき、単元構想シートを活用し多面的多角的に検討しながら授業づくりに取り組んできました。

単元構想シートは授業計画を検討する際に活用していますが、今年度は事前の準備に負担なく、そしてより建設的に意見を出し合えるよう様式の見直しをしています。また、授業や児童生徒について職員が語り合い、検討を重ね改善を図る機会を設定しました。こうした職員の向上心や協働が授業づくりには肝要であり、また持続可能なカタチの研究が求められていると改めて感じています。

本校には、多様な教育的ニーズのある子どもたちが在籍しており、全ての子どもたちに現在、そしてこれから先に必要な資質・能力を育みたいと考えています。多様な教育的ニーズに応えるためには、職員が様々な視点から意見を出し合い、子どもにとっての最適解を見出ししていくことが大切です。チームで取り組むよさを大いに発揮することで、ねらいの妥当性を高め、ねらいに迫るための単元構想や教材、関わり方等が最適化され、よりよい授業につながると考えます。児童生徒にとって主体的・対話的で深い学びにつながる授業となるよう、チームでの練り合いを続けていくことは欠かせません。授業づくりの過程を職員間で共有し、実践し評価する、これらに日々真摯に取り組み互いに学び合うこと。時間の設定がなかなか難しい状況の中で、まだ課題はありますが、職員は粘り強く考え、話し合い、工夫しながら授業づくりに取り組んできました。

先日、「研究は、教師がどうしてもつづけていかなければならないことの、ひとつだと思います」という大村はま氏の言葉を目にしました。また、「研究をつづけ、学びつづけることは、子どもと同じ床に立ち、同じ世界にいることなのです」とありました。大村氏は、子どもと同様に学ぶ立場にいること、そのことが子どもの指導に役立つと伝えています。子どもと共に、教師も学び続けることの意義や価値は、時を経ても変わっていません。

今年度チームで取り組んできた実践研究の成果と課題を、令和6年度研究紀要「きらり」第15集としてまとめました。研究に御協力いただきました皆様に心より感謝申し上げます。是非御高覧いただき本校の取組に対して多くの方々から忌憚のない御意見、御指導をいただけますと幸いです。

校長 松井 智子

# 目 次

巻 頭 言

校 長 松井 智子

## I 全体研究の概要

1 研究主題	.....	1
2 研究主題の設定理由	.....	1
3 研究の目的	.....	1
4 研究仮説	.....	2
5 研究組織	.....	2
6 研究の内容と方法	.....	3
7 年間計画	.....	4
8 研究の実際	.....	5
9 まとめ	.....	9
10 次年度への提言	.....	10

## II 各研究グループの実践

I 類型グループ (各教科)	.....	11
II 類型グループ (小：生活科 中：社会科 高：職業科)	.....	20
III 類型グループ (国語科)	.....	31
訪問部グループ (国語科)	.....	41

## III 各種研究大会発表

・第70回全国肢体不自由教育研究協議会 (熊本大会)	教 諭 一関留美子	.....	51
・第62回東北地区肢体不自由教育研究大会 (宮城大会)	教 諭 加藤 俊之	.....	55

あとがき

副校長 高橋 省子

令和6年度 研究同人

# I 全体研究の概要

# I 全校研究の概要

## 1 研究主題

肢体不自由及び病弱教育の主体的・対話的で深い学びの授業づくり  
～単元（題材）構想シートを用いたチームで取り組む授業改善～ 2年次/2か年

## 2 研究主題の設定理由

### （1）学校経営の方針より

令和6年度の学校経営の方針では、「肢体不自由および病弱者である児童生徒の多様な教育的ニーズに応じて、医療療育機関と連携した安全な教育環境のもとで、自立と社会参加に必要な力を育成する」と教育目標が設定されている。教育方針の確かな教育において「根拠の明確な教育課程を編成し、学部間の連携及び卒業後を見据えた長期的な視点を基盤に、主体性・自主性を育む教育を展開する」とある。本年度の重点の中では、「学習指導要領に即し、児童生徒の教育的ニーズに応じた教育課程の改善と授業づくりに一体的に取り組む」と挙げられており、学習指導要領を根拠とした授業づくりを通して、児童生徒の主体性や自主性を育むための授業づくりの充実を図る必要がある。

### （2）学習指導要領より

「生きる力」を育むために各教科等を学ぶ意義を共有しながら、育成を目指す資質・能力として三つの柱で各教科等の目標と内容が整理された。この資質・能力を身に付け、子供たちが生涯にわたって能動的に学び続けることができるように、学校教育の蓄積を生かし、学習の質を一層高める授業改善の取組を活性化していくことが必要であり、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進することが求められている。

### （3）1年次の研究より

「肢体不自由及び病弱教育の主体的・対話的で深い学びの授業づくり」として、児童生徒の育成を目指す資質・能力を育むために、「単元（題材）構想シート」を用いて、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点で授業づくりを行った。また、「自立活動シート」を用いて自立活動の視点を生かし、各教科の目標達成に向けて手立てや配慮事項を検討した。「単元（題材）構想シート」を活用したことで、目標や指導内容は整理されたが、現様式では類型によって使いづらい部分があったため、2年次では類型ごとに様式を整え活用することにした。また、類型ごとにグループ研究で出たキーワードを集約・整理し、表「主体的・対話的で深い学びの実現のための学習者の視点と授業者の視点」を類型ごとに作成した。2年次の研究では、この表を「単元（題材）構想シート」と併せて、授業づくりや授業改善に生かしていく。

## 3 研究の目的

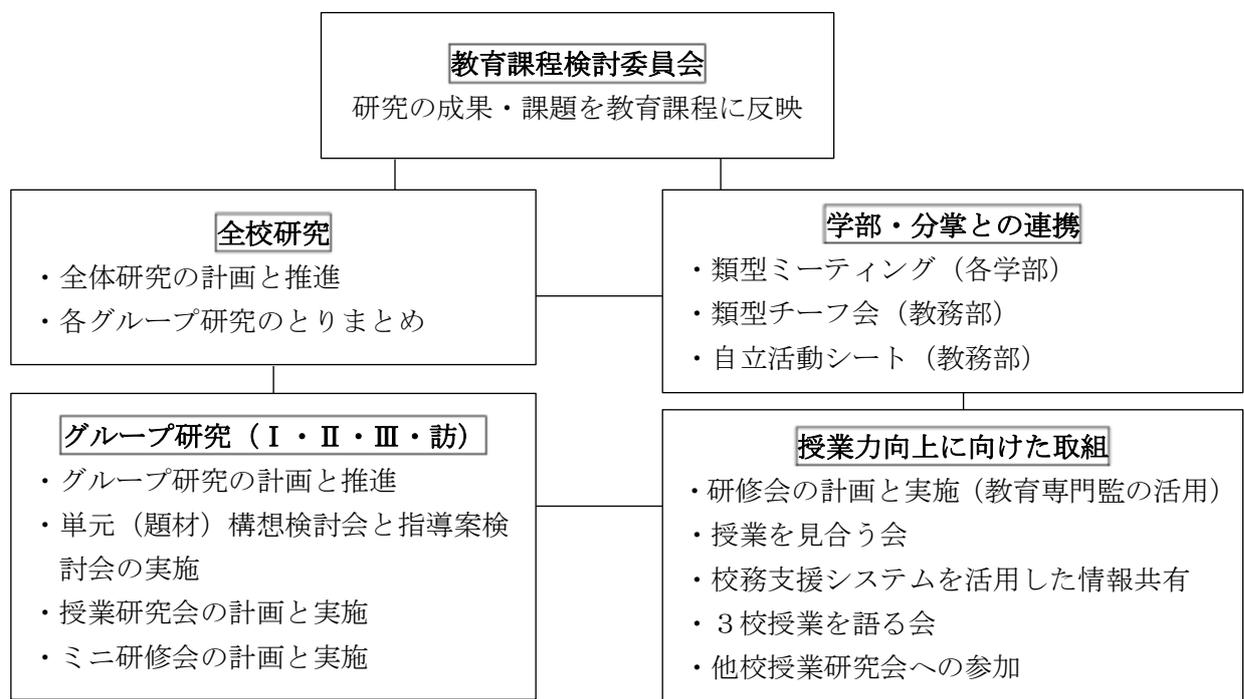
児童生徒の育成を目指す資質・能力を育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けてチームで授業づくりや授業改善に取り組む。そのために次のことに焦点を当てて進める。

- ・「単元（題材）構想シート」や表「主体的・対話的で深い学びの実現のための学習者の視点と授業者の視点」を活用し、チームで授業づくりや授業改善の充実を図る。
- ・児童生徒の目指す姿、対象とする各教科の目標や指導内容等の共通理解を図り、単元（題材）を通して評価・改善を繰り返し行う。「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」のそれぞれの学びの姿を引き出しながら学習活動を展開し、学びの状況や育成された力、有効な手立て等について評価・情報共有する。

#### 4 研究仮説

- 次の3点に取り組むことで、児童生徒の育成を目指す資質・能力を育むことにつながるだろう。
- ・「単元（題材）構想シート」を活用し、単元（題材）構想についてアイデアを出し合い、複数の眼で授業デザインを考える。
  - ・表「主体的・対話的で深い学びの学習者の視点と授業者の視点」を活用し、学習者の視点と授業者の視点で分析して授業づくりや授業改善に生かす。
  - ・研究チームきらりを編制し、単元（題材）を通して評価・改善を繰り返しながらチームで授業づくりや授業改善を行う。児童生徒の学びの姿や育成された力、有効な手立て等について各研究グループで共有する。校務支援システム等を活用して全職員に情報を発信し、日々の指導に生かす。

#### 5 研究組織



##### <研究グループ>

- ・Ⅰ類型（準ずる各教科を学習するグループ）：各教科
- ・Ⅱ類型（知的代替の各教科を学習するグループ）：小（生活科）・中（社会科）・高（職業科）
- ・Ⅲ類型（主として自立活動を学習するグループ）：国語科
- ・訪問部（訪問教育の学習グループ）：国語科

## 6 研究の内容と方法

「主体的・対話的で深い学び」の姿を実現させながら児童生徒の育成を目指す資質・能力を育むために、次の内容と方法で取り組む。

### (1) 研究チームきりりとしての研究推進

＜チーム編制＞

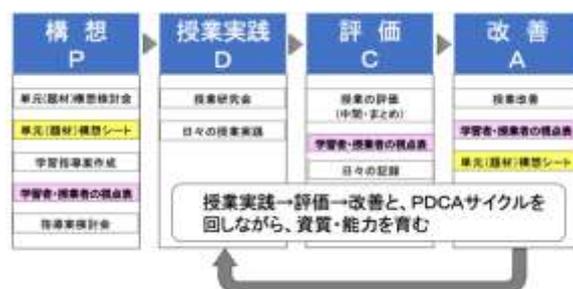
	チームメンバー	検討会、研究会等
チーム1	授業者、学級担任、類型チーフ、研究部、教育専門監等	単元（題材）構想検討会、授業改善等
チーム2	各研究グループの所属メンバー	指導案検討会、授業研究会、ミニ研修会等
チーム3	全職員	全校研究会、研修会、校務支援システム等を活用した情報発信・共有等

※学部主事、教育専門監、ICT推進リーダー、研究主任は、各研究グループに所属せず、要請や必要に応じて検討会や授業研究会等に参加・助言する。

- ・チームメンバーに役割や参観・提案の視点を設定し、検討会や授業研究会を実施
- ・校務支援システム等を活用した全校研究や各研究グループの取組、研究に関する情報発信
- ・授業力向上に向けた校内研修会、出張報告会等の学習機会の設定

### (2) 各研究グループによる研究推進

- ・各研究グループの実情や課題に応じた研究計画
- ・単元（題材）を通したPDCAサイクルでの授業改善
- ・指導案検討会の実施
- ・授業研究会による評価と授業改善
- ・児童生徒の変容と有効な手立て等の情報共有
- ・協議内容・視点の整理とリフレクションシートの活用
- ・ミニ研修会の計画・実施（講義型・体験型）



図【単元（題材）を通したPDCAサイクルでの授業改善】

### (3) 授業づくりや授業改善における各ツールの活用と検証

#### ①「単元（題材）構想シート」の活用について

- ・類型ごとに様式を整備（新様式を活用、検証後、各研究グループで様式を再検討）
- ・授業者（T1）が児童生徒の目指す姿に応じて目標や授業内容等をだまかに設定（箇条書き）
- ・単元（題材）検討会で上記を記載した構想シートを基に、授業関係者でアイデアを出し合い、複数の眼で授業デザインについて検討（作り込まずラフスケッチとして活用）
- ・各研究グループで作成した「単元（題材）構想シート」の情報共有（校務支援システム等で閲覧）

#### ②表「主体的・対話的で深い学びの実現のための学習者の視点と授業者の視点」の活用について

- ・グループ研で出されたキーワードを集約し、各類型で内容を整理（1年次作成）
- ・単元（題材）検討会、指導案検討会、授業研究会等、授業づくりや授業改善で活用（学習者の視点、授業者の視点で分析）
- ・各類型で表の項目を適宜見直し、加除・修正しながら活用

## 7 年間計画

実施日	項目	主な内容
4 / 30 (火)	全校研究会 I 研修会	今年度の全校研究について テーマ「①深い学びの鍵は『教科の見方・考え方』 ②教科の学びを支える自立活動」
5 / 28 (火)	グループ研究会① ミニ研修会	今年度のグループ研について テーマ「単元（題材）構想シート」
6 / 5 (水)	Ⅲ類型：研修会	テーマ「国語科『言葉による見方・考え方を働かせる』とは」
6 / 17 (月)	Ⅲ類型：授業研究会	中学部 2組 国語科（授業提示）
6 / 18 (火)	グループ研究会② Ⅲ類型：授業研究会	指導案検討会 中学部 2組 国語科（授業研究会）
6 / 24 (月)	Ⅲ類型：授業研究会	高等部 2組 国語科（授業提示・授業研究会）
7 / 11 (木)	Ⅱ類型：授業研究会	中学部 1組 社会科（授業提示）
7 / 12 (金)	訪問部：授業研究会	小学部 1年 4組 国語科（授業提示）
7 / 16 (火)	グループ研究会③ Ⅰ類型：ミニ授業研究会 Ⅱ類型：授業研究会 Ⅱ類型：授業研究会	各教科（指導主事計画訪問の提示授業） 小学部 4年 1組 生活科（授業提示） 中学部 1組 社会科（授業研究会）
7 / 18 (木)	Ⅱ類型：授業研究会	小学部 4年 1組 生活科（授業研究会）
7 / 26 (金)	北海道東北地区病弱虚弱教育研究連盟研究協議会（秋田大会）	
8 / 22 (木)	グループ研究会④ 訪問部：授業研究会	I期の評価 小学部 1年 4組 国語科（授業研究会）
9 / 10 (火)	グループ研究会⑤	指導案検討会 ※各グループで実施日異なる
9 / 17 (火)	全校研究会 II	中間報告
10 / 9 (水)	Ⅲ類型：授業研究会	小学部 5年 2組 国語科（授業提示・授業研究会）
10 / 16 (水)	グループ研究会⑥	授業研究会 ※各グループで実施日異なる
10 / 23 (水)	Ⅱ類型：授業研究会	高等部 3年 1組 職業科（授業提示・授業研究会）
10 / 25 (金)	Ⅰ類型：授業研究会	高等部 2年 3組 家庭科（授業提示・授業研究会）
11 / 18 (月)	グループ研究会⑦	II期の評価
12 / 10 (火)	グループ研究会⑧	単元（題材）の評価、児童生徒の変容等
1 / 17 (金)	グループ研究会⑨	今年度のまとめ
2 / 12 (水)	グループ研究会⑩	次年度に向けて
2 / 25 (火)	全校研究会 III	今年度のまとめ、次年度の研究について

※各研究グループにより一部変更あり「Ⅱ 各研究グループの実践」を参照

I期：5月～ 8月  
II期：9月～12月



図【研究チームきらり】の3つのカテゴリー

## 8 研究の実際

### (1) 研究チームきりりとしての研究推進

今年度の研究を進めるに当たり、全体でチームの定義や役割等を確認し、研究に関する話合いや情報共有を行うメンバーを3つのカテゴリーに分け、研究チームきりりを組織した。各研究グループに所属するメンバーは、チーム1・2でそれぞれの役割を担い、提示授業の授業づくりや授業改善に取り組んだ。チーム3は、全校研究や各研究グループ等の情報を共有する機会として、全職員へ研究に関する情報発信を行った。各カテゴリーにおけるチームの特徴は、以下のとおりである。

チーム1	小規模：単元（題材）構想検討や授業改善、単元（題材）の評価等を中心に行う。授業者の希望により、異なる類型や学部職員等をメンバーとして招集する。	
メンバー	授業者、学級担任、類型チーフ、研究部、教育専門監+α（教科担当、学部主事等）	
役割	授業者	目指す姿からねらいや指導内容、手立て等を提案、構想シート作成(T1)
	学級担任	実態や目指す姿から自立活動の視点を含めて提案
	類型チーフ	類型研究の方向性を基に提案
	各教科担当	各教科の視点で「見方・考え方」を踏まえたねらいや学習内容等を提案
	教育専門監	全体を見ながら適宜助言
	研究部	研究の方向性を基に提案、連絡調整
チーム2	中規模：各研究グループに所属するメンバーで提示授業の指導案検討や授業研究会での協議を通して評価、改善案を検討する。	
メンバー	研究グループ所属メンバー、研究部	
役割	授業者(T1)	指導案作成、単元（題材）に関する授業説明（ねらい、学習内容、手立て等）
	〃(T2以下)	児童生徒の実態や授業に関する補足説明、質疑応答
	参観者	環境設定や手立て等、授業者・各教科等の視点で参観、提案
	教育専門監	全体俯瞰、指導助言、事例紹介等
	研究部	司会進行、連絡調整、情報提供等
チーム3	大規模：全校研究や研究グループの研究経過、研究に関する情報の発信をする。	
メンバー	全職員	
役割	研究部	研究に関する情報を以下の方法で職員へ情報発信
伝達方法	全校研究会、研修会、研究だより、校内掲示、校務支援システム、研究ラボ等	

#### 【アンケート調査より】

質問「チームでの授業づくりの有用性は」※回答者68名

○成果 ●課題 ◎要望・提案 満足度の数値（1<5 満足度が高い）

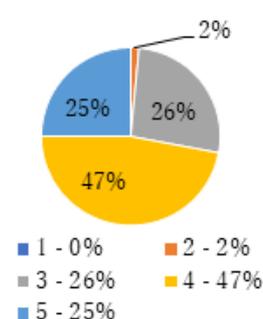
○様々な考えやアイデア→気づき、意見交換を通して授業の幅の広がり

○児童生徒の実態や授業についての情報共有化

●チーム内の役割の明確化→ねらいに迫った話合いへ

◎短時間で繰り返し検討、年代別・役割別で話し合う機会の設定

チームの有用性



提示授業を中心とした単元（題材）構想検討、指導案検討、授業研究会等を通して、多くの職員からチームで授業づくりに取り組むことの有効性がアンケート結果から確認できた。学部や教科、経験年数等の異なる職員との意見交換を通して新しいアイデアが生まれ、授業者のみならず参加者の学びにつながった。チーム内の役割を明確にすることで、それぞれの視点から話し合うことにより、協議を深められると考える。

## (2) 各研究グループによる研究推進

昨年度に引き続き、グループ単位での研究を軸とし、「主体的・対話的で深い学びの授業づくり」にチームで取り組んだ。各研究グループにおける具体的な取組は、「Ⅱ 各研究グループの実践」で述べる。ここでは、各研究グループの概要を簡潔にまとめる。

	研究グループの取組
I 類型	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所属メンバー全員が担当教科の「単元（題材）構想シート」を作成し、授業づくりに活用</li> <li>・Ⅰ期：動画を活用したミニ授業研究会（2回）、Ⅱ期：授業研究会（1回）</li> <li>・Ⅱ期：授業を見合う会の実施（対象：全職員）</li> </ul>
Ⅱ 類型	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業づくりのプロセスをSTEP化（構想から評価まで5段階で実施）</li> <li>・Ⅰ期：授業研究会（2回）、Ⅱ期：授業研究会（1回） ※Ⅱ期は外部講師を招聘</li> <li>・単元（題材）を通した学びを「期待する姿」とし、「評価シート」へ記入</li> </ul>
Ⅲ 類型	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元（題材）構想シートを年2回（Ⅰ期・Ⅱ期）作成、全学習グループが授業づくりに活用</li> <li>・Ⅰ期：ミニ授業研究会（2回）、Ⅱ期：授業研究会（1回） ※Ⅱ期は外部講師を招聘</li> <li>・単元（題材）を通した児童生徒の変容と他教科での姿を「評価シート」へ記入</li> </ul>
訪問部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象児童1名を抽出、「言葉」に着目して年間を通して対象児童の変容をチームで見取る。</li> <li>・Ⅰ期：動画を活用した授業研究会（1回）</li> <li>・Ⅱ期：授業を見合う会の実施（対象：所属メンバー、数回に分け病室を訪問して授業参観）</li> </ul>

I類型、訪問部は、所属メンバーが少なく、小集団であることから、単元（題材）の構想からまとめの評価まで、所属メンバー全員で授業づくり・授業改善を行った。Ⅱ類型、Ⅲ類型は、所属メンバーが多く、集団が大きいことから、単元（題材）構想を学習グループのメンバー中心（チーム1）に、指導案検討や授業研究会を所属メンバー全員（チーム2）で行った。また、Ⅰ～Ⅲ類型は、それぞれⅠ期、Ⅱ期に授業研究会（一部ミニ授業研究会）を実施した。訪問部は、対象児童を抽出し、年間を通してチームで児童の変容を見取りながら事例研究を行った。

## (3) 各研究グループで作成・活用したツールについて

### 1) 研究グループで活用したツールの特徴

授業デザインを考える上で「単元（題材）構想シート」、表「主体的・対話的で深い学びの実現のための学習者の視点と授業者の視点」、単元（題材）を通した評価をする上で「評価シート（各研究グループで名称が異なる）」を活用した。詳細は、「Ⅱ 各研究グループの実践」を参照。ここでは研究グループごとの特徴を簡潔にまとめる。

	各研究グループで作成・活用したツールの特徴
I 類型	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「単元（題材）構想シート」に、表「主体的・対話的で深い学びの実現のための学習者の視点と授業者の視点」及び各教科の「見方・考え方」を記載（シート①）</li> <li>・単元（題材）の中間・まとめの評価、今後の指導に向け有効だった手立てを記載（シート②）</li> </ul>
Ⅱ 類型	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「単元（題材）構想シート」に各教科の「見方・考え方」を明記</li> <li>・表「主体的・対話的で深い学びの実現のための学習者の視点と授業者の視点」の内容を各教科で整理</li> <li>・「単元（題材）評価シート」に「期待する姿」を明記、年間を通した児童生徒の変容を記載</li> </ul>
Ⅲ 類型	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「単元（題材）構想シート」に国語科の「見方・考え方」を明記 児童生徒の実態、単元（題材）の目標、学習活動等、必要最小限の情報をシートに記載したものを基に構想検討</li> <li>・表「主体的・対話的で深い学びの実現のための学習者の視点と授業者の視点」の各項目に番号を付け、「単元（題材）構想シート」の手立てと連動させて活用</li> <li>・「評価シート」へ単元（題材）のまとめの評価と他教科で国語科の学びが見られた場面を記載</li> </ul>
訪問部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「単元（題材）構想シート」に、本校訪問部生の視点での国語科の見方・考え方を記載</li> <li>・表「主体的・対話的で深い学びの実現のための学習者の視点と授業者の視点」に単元（題材）本時での重点項目のチェック欄を記載</li> <li>・年間を通した児童生徒の変容を映像で振り返り、評価（協議記録として整理）</li> </ul>

## 2) 「単元（題材）構想シート」

今年度、各研究グループで授業提示を行った学習グループ、指導主事計画訪問等で授業提示を行った学習グループで、「単元（題材）構想シート」を授業づくりに活用した。5月のグループ研究では、「単元（題材）構想シート」の活用について、体験型のミニ研修会を実施した。研究グループによっては、I期で実際に活用した職員の意見を参考に、様式の一部を見直して改訂版をII期の授業づくりで活用した。

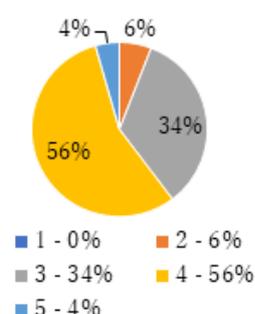
### 【アンケート調査より】

質問「構想シートの必要性は」※回答者68名

○成果 ●課題 ◎要望・提案 満足度の数値（1<5 満足度が高い）

- 考えの整理、気付き、ねらいや学習計画等の情報共有に有効
- 話し合いのツールとして活用しやすい、授業改善の際のヒントへ
- めあての共有や指導計画立案に有効、指導観も共有できると良い
- 記入事項を簡略化し、通常の授業でも活用できるものへ
- ◎自由記述欄があると良い、打ち込みと手書きの選択制

構想シートの必要性



「単元（題材）構想シート」は、実際に活用した職員から目指す姿を基に、目標設定や指導計画等について授業デザインを考える上で有効だったという意見が多く挙げられた。各類型により様式は異なるが、授業者の考えの整理、授業者以外から多面的・多角的な視点でのアイデアを得られる、授業に関する情報の共有化が図られる等、話し合いを行う際のツールとして活用しやすいものであった。指導観の記入、自由記述欄の有無等の意見もあるが、日々の授業づくりに活用できるものにしていくためには、記載内容と作成のしやすさの双方のバランスを考え、整えていく必要がある。

## 3) 表「主体的・対話的で深い学びの実現のための学習者の視点と授業者の視点」

表「主体的・対話的で深い学びの実現のための学習者の視点と授業者の視点」は、「単元（題材）構想シート」に組み込んだもの、項目に番号を付けて活用したものなど、各研究グループによって活用の仕方に違いがある。単元構想を検討する際には、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」について授業者と学習者の双方の視点で授業デザインを考える上での指標となった。

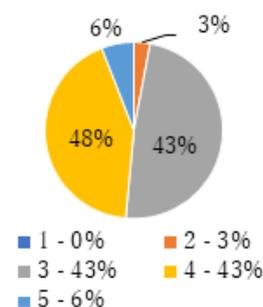
### 【アンケート調査より】

質問「視点表の必要性は」※回答者68名

○成果 ●課題 ◎要望・提案 満足度の数値（1<5 満足度が高い）

- 授業デザインや話し合いのための視点となり、「単元（題材）構想シート」を補完する上でも必要
- 学習者・授業者双方の視点があると構想立てやすい
- 構想検討では有効、中間・まとめの評価で活用する機会が少ない
- 学習者・授業者の視点項目が多い（Ⅲ類型）
- ◎授業で活用しやすいものにするために視点表の内容の整理が必要

視点表の必要性



表「主体的・対話的で深い学びの実現のための学習者の視点と授業者の視点」の活用は、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の実現に向けて、学習活動や教師の手立て等を学習者・授業者双方の視点で授業について考える上で有効だった。しかし、授業デザインを検討する上では効果があつたものの、中間・まとめの評価の際の活用の機会が少なかったという課題もあることから、単元（題材）を通して授業改善にも活用できるように、記載内容の精選が必要である。

#### 4) 「評価シート」

各研究グループで「評価シート」を作成し、単元（題材）を通した評価を行った。「評価シート」の様式は、各研究グループで異なり、Ⅰ類型では、他教科に生かせるように有効だった手立てや学習環境等について記載した。Ⅱ類型では、単元（題材）終了段階で学習したことを今後の生活に生かすため「期待する姿」を記載した。Ⅲ類型では、研究対象である国語科の学びが学校生活や他教科等で見られた場面を記載する項目を設定した。訪問部では、日々の指導記録を活用しながら年間を通して抽出見の変容を協議記録としてまとめた。

#### (4) 研究に関する情報共有

各類型を学部縦割りにした研究グループで研究を進めるに当たり、研究経過を全体で共有しづらいという現状がある。その原因として、教育課程が複数あること、学部が縦割りになることによって児童生徒の実態や変容等を共有する機会が設定しづらいこと、所属グループ以外に目を向ける時間が不足していること等が挙げられる。これらの現状の改善に向けて、今年度は、校務支援システムの「会議室」を活用し、研究に関する情報をトピックごとに分け、全校研究や研究グループの取組を全職員へ情報発信した。「会議室」を活用した情報発信は送・受信者双方に利点があり、Ⅰ期の実施から「他の研究グループの情報が分かる」「情報が迅速に配信される」といった成果が挙げられた。反面、「配信される情報量が多い」「必要な情報を探すのが大変」等の校務支援システムを活用した情報配信に関するシステム上の課題も挙げられた。そこで、Ⅱ期は、研究に関する校内情報サイトとなる「チームきらりの研究ラボ」を開設した。校務支援システムの「会議室」では研究に関する連絡を中心に、「チームきらりの研究ラボ」では授業づくりに関するツールや授業動画等の研究に役立つ情報を中心に取り扱い、伝達内容をすみ分けて情報配信した。



図【チームきらりの研究ラボ】のトップページ

## 9 まとめ

### (1) 「単元（題材）構想シート」等の活用による授業デザイン力の向上

単元（題材）構想を検討する際のツールとして「単元（題材）構想シート」、表「主体的・対話的で深い学びの実現のための学習者の視点と授業者の視点」を活用して授業づくりや授業改善を行ってきた。「8 研究の経過」の「(3) 各研究グループで作成・活用したツールについて」でも述べたように、これらのツールは、授業に関する情報の共有化や授業デザインを考える上で、有効なツールであることが検証できた。日々の授業づくりでも活用しやすいように内容の簡略化を求める意見も一定数あることから、授業づくり支援ツールとして、様式を整え、日々の授業づくりでの活用を推奨していく。

### (2) 授業づくり・授業改善にチームで取り組むよさ

単元（題材）構想から単元（題材）の終わりの評価まで、研究グループごとにチーム体制を整えて授業づくりに取り組んできた。授業者を中心としたチーム1での話し合いでは、「単元（題材）構想シート」を話し合いのツールとして用い、学部や類型を超えたメンバーで授業づくりについて活発な意見交換を交わした。このつながりをきっかけに、授業についての悩みを気軽に相談し合える雰囲気職員間に広がるとともに、類型ミーティング等を活用した児童生徒の学びの姿や成長等について職員間で共有する機会も増えた。また、各研究グループに所属する全メンバーを対象とするチーム2では、児童生徒や授業に関する情報の事前配信、提示授業の動画視聴の機会を設定したことにより、指導案検討会や授業研究会での協議の深まりにつながった。Ⅱ期に実施した授業を見合う会では、児童生徒の他教科での様子や優れた授業実践を見る機会となり、児童生徒の実態把握や教師の授業力の向上にもつながった。

チームの有効性が確認できた反面、チームの捉えの難しさを指摘する声もあり、チームについて分かりやすく示す必要があった。また、研究グループによっては、単元（題材）構想検討会の開催に向けてメンバーや日程調整等で苦労する場面が見られた。授業者に数名の職員を加えたメンバーでのチーム体制が授業づくりにおいて効果が高いことから、メンバー構成を見直して授業づくりをサポートする体制を整えていきたい。

### (3) 単元（題材）を通した評価の在り方

各研究グループで「評価シート」を作成し、単元（題材）を通した児童生徒の変容等について評価を行った。類型によって「評価シート」の様式は異なるが、共通事項として、児童生徒の変容についてエピソード記録としてまとめた。Ⅲ類型では、「目標達成の具体的な姿」を補助資料として作成・活用しており、目標や手立て、具体的な姿を含む評価の視点が分かりやすく記されていることから、自立活動を主とする児童生徒の微細な反応や表出を見取るための評価基準として授業者・参観者双方にとって有効であった。児童生徒の学びを評価する上で、補助資料としての活用も検討していく。

単元（題材）を通した児童生徒の学びの姿や変容等を評価するに当たり、評価の妥当性について課題がある。教師による児童生徒の見取りの視点整理、目標と評価規準の明確化、適切な学習評価の在り方等について、本校独自の方法を探っていく必要がある。

### (4) 職員の授業力向上に向けた研究に関する情報発信

研究に関する情報発信については「(4) 研究に関する情報共有」で述べた。Ⅱ期に開設した「チームきらりの研究ラボ」を活用した情報発信により、研究に関する伝達方法のすみ分けができたことは、情報収集の容易さ、授業実践の好事例を動画視聴することによる自己研鑽等に期待ができる。しかし、「チームきらりの研究ラボ」の運営・管理面において、情報の定期更新や新しいトピックの立ち上げ等、ICTに関するスキルの高い職員の確保が必要である。これについては、情報教育部と連携を図るとともに、運営に参画できる部員の育成も進めていく。また、研究に関する校内情報サイトの充実を図る上で、自立活動部や地域支援部等、他分掌と連携を図り、教師の授業力向上の一助となる情報を今後も発信していきたい。

## 10 次年度への提言

児童生徒の育成すべき資質・能力を育むために「肢体不自由および病弱教育の主体的・対話的で深い学びの授業づくり」を研究主題とし、2か年計画で研究を進めてきた。「単元（題材）構想シート」や表「主体的・対話的で深い学びの実現のための学習者の視点と授業者の視点」を活用して授業づくりを行ったことで、児童生徒が主体となる授業デザインの構築、児童生徒の「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点に立った授業実践について成果が見られた。しかし、各研究グループからも挙げられているとおり、教師による見取りの視点、児童生徒の学習評価等に関して課題が残る。本研究の課題を次年度に生かし、児童生徒の目指す姿の実現に向けて授業改善を行いながら、育成すべき資質・能力を育むことを目指して、今後もチームで授業づくりに取り組んでいく。

### 【参考文献】

- ・新井英靖(2019)『特別支援学校 新学習指導要領を読み解く「各教科」「自立活動」の授業づくり』  
明治図書
- ・秋田県立秋田きらり支援学校研究紀要 第9～14集
- ・文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説 総則編』開隆堂
- ・文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）』開隆堂
- ・文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）』開隆堂
- ・文部科学省国立教育政策研究所(2020)『主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の視点について』[https://www.nier.go.jp/05\\_kenkyu\\_seika/pdf\\_seika/r02/r020603-01.pdf](https://www.nier.go.jp/05_kenkyu_seika/pdf_seika/r02/r020603-01.pdf)
- ・中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会(2019)『児童生徒の学習評価の在り方（報告）』  
[https://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/shingi/toushin/\\_icsFiles/afieldfile/2019/04/17/1415602\\_1\\_1\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2019/04/17/1415602_1_1_1.pdf)
- ・文部科学省国立教育政策研究所(2020)『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（小学部編・中学部編）』教育課程研究センター
- ・文部科学省国立教育政策研究所(2019)『「学習評価の在り方ハンドブック（小・中学部編）」』教育課程研究センター

## Ⅱ 各研究グループの実践

I 類型グループ（各教科）

II 類型グループ（小：生活科 中：社会科 高：職業科）

III 類型グループ（国語科）

訪問部グループ（国語科）

# I 類型グループ (教科を主とした教育課程)

研究対象教科：各教科

## 1 研究経過

	実施日	項目	主な内容
	5 / 28 (火)	グループ研究会①	今年度のグループ研について ・昨年度の研究の成果と課題の確認
		ミニ研修会	テーマ「単元(題材)構想シートについて」 ・自分の授業について単元(題材)構想シートをもとに考える。 ・指導書や学習指導要領で「教科の見方・考え方」について確認し、シートに記入。
I 期 P D C A サイ クル	6 / 28 (金)	グループ研②	<b>小学部6年 総合的な学習の時間(事前の授業検討)</b> ・略案及び <b>シート①</b> を用い、「主体的な学び・対話的な学び・深い学び」の各視点に応じて効果的な手立てを検討。
	7 / 2 (火)	授業実践	<b>小学部6年 総合的な学習の時間(授業提示) ※VTR</b> <b>高等部1・2年 化学基礎(授業提示) ※VTR</b>
	7 / 9 (火)	グループ研③	<b>高等部1・2年 化学基礎(ミニ授業研究会)</b> ・略案及び <b>シート②</b> を使い、各視点から検討した手立ての評価を実施。授業のVTRを見て成果と課題を協議。
	8 / 22 (木)	グループ研究会④	<b>小学部6年 総合的な学習の時間(ミニ授業研究会)</b> ・ <b>シート②</b> を使い、各視点から検討した手立ての評価を実施。授業のVTRを見て成果と課題を協議。 ・I期の評価・単元構想シートの感想や成果を確認。
II 期 P D C A サイ クル	8 / 23 (金)	事前の単元検討会	<b>チーム1①</b> 単元のおおまかな内容の検討 <b>シート①</b>
	9 / 5 (木)	事前の単元検討会	<b>チーム1②</b> 生徒の実態と内容のすり合わせ <b>シート①</b>
	9 / 17 (火) ~ 27 (金)	I 類型授業を見合う週間の実施	・所属している類型は問わず、I 類教科の授業を担当する教師の授業提示を実施。
	10 / 10 (木)	グループ研究会⑤	<b>チーム2 指導案検討会</b>
	10 / 25 (金)	グループ研究会⑥	<b>授業研究会：高等部2年 家庭基礎(授業提示・授業研究会)</b> <b>シート②</b>
	11 / 25 (月)	グループ研究会⑦	II期の評価 ・単元の評価と生徒の変容についての振り返り。 ・単元構想シート等の成果と課題を協議。
	12 / 10 (火)	グループ研究会⑧	I・II期のまとめと評価 ・年間の児童生徒の変容について、授業作りの視点で振り返り、成果や課題について確認。
	1 / 17 (金)	グループ研⑨	今年度のまとめ
	2 / 6 (木)	グループ研⑩	次年度に向けて

## 2 研究実践

### (1) チームとしての取組

#### 【授業づくり・授業改善】

##### ① 活用ツールの特徴

- ・主・対・深に応じた学習者・授業者の視点表と、単元の目標及び教科の見方・考え方を盛り込んだ「単元（題材）構想シート①（P18）」を作成し、授業のデザインができるようにした。「シート②（P19）」にも視点表を盛り込み、中間 Check や評価を行うことができるようにし、授業検討会にも使用した。

##### ② 単元（題材）構想シートを用いた検討会

- ・「単元（題材）構想シート」の主・対・深の各視点表や教科の見方・考え方、単元の目標を照らし合わせることで、その単元のポイントになる視点を明確にし、学習内容や手立てを検討した。
- ・チームの構成は以下のとおり実施した。

**チーム1**：①授業者及び研究部 ②授業者、研究部、教育専門監、学級担任、前年度教科担当

**チーム2**：I 類型研究グループ

##### ③ 指導案検討、授業研究会の持ち方

- ・I 期では略案とVTRをもとに2つのミニ授業研（実践1・2）を行った。
- ・II 期では、実践3について授業研究会を行った。

##### ④ 単元の評価

- ・シート②を使い、シート①でポイントにしていた視点や手立てについてどうだったのかを、視点表で照らし合わせながら中間 Check や単元（題材）の評価を行った。児童生徒の変容や有効だった手立て、課題をまとめるためにシートを活用した。

#### 【授業を見合う週間】

① **実施期間**：9月17日（火）～9月27日（金）

② **参観形態**：I 類型の教科を担当している教師が、参観可能な授業を提示。参観体制は、類型を問わずに誰でも参観できることとした。

③ **実施結果（授業者、参観者双方の視点から）**

○**成果**：授業を見合うことで学び合うことができた。アドバイスや参観から気づきを得て、授業改善に結びついた。I 類の研究グループに入っていないがI 類教科を担当している、または各教科の授業を受けもつ非常勤の教師にも、学び合う機会を提供できた。

●**課題**：授業を見たくても見に行くことができない教師もいた。

☆**改善点**：もっと早い時期（1学期）に実施することで、その後の授業づくりに生かせるのではないか。一人1～2は必ず見るという体制づくりをする。

## (2) 授業実践

### 【実践1】 高等部 1・2年3組 化学基礎

#### 「イオンとイオン結合」

##### 〈学習計画〉

- 1 イオン(1) ※本時
- 2 イオン(2)
- 3 イオン結合
- 4 イオンからなる物質

##### 単元の目標

- ・イオン結合がイオン間の静電的な引力による結合であることを理解する。[知]
- ・観察、実験などを行い、イオン結合でできた物質の性質を見いだして表現する。[思]
- ・イオン結合に関する事物・事象に主体的に関わり、科学的に探求しようとする。[学]

##### 教科の見方・考え方

質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点。

##### 単元シートを使った 事前検討より

- ・教科書のポカリスエットの記述を使い、生徒の日常生活と結びつける。
- ・学習者の視点として「お互いの考えを比較」、「思考を表現に」をポイントに。

##### 児童生徒の学びの姿

##### 主体的な学び

- ・掲示物、タブレット、プリント、ノート、マグネットの操作等の学習活動の工夫  
→時間いっぱい集中  
(★学習課題の設定・提示)

##### 対話的な学び

- ・直接的な対話ではないやりとり。考えの比較。  
→実態に応じた対話
- ・タブレットによる写真、音声入力→多様な手段で説明  
(★考えを比較★思考を表現に)

##### 深い学び

- ・丁寧な教材提示  
→既存の知識の確認。
- ・自分の言葉でまとめる。  
→表現できる、考えを言語化  
(★振り返ってつなげる)  
(★既存の知識と結びつける)

##### 授業研究会から(課題、改善点、指導助言)

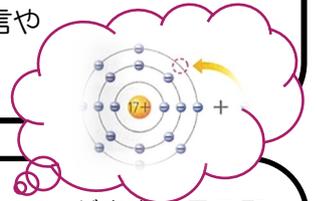
○二人の関係性から直接的な対話よりも、「タブレットでまとめた考えをお互いに比較し合う」という対話のあり方が効果的だった。

△○ポカリスエットを知らなかった。生活経験の不足。これをきっかけに日常生活に関係するイオンについて取り上げ、化学と生活の結びつきがあることを実感できるようにし、経験を広げる。

◎△自分の言葉で考えをまとめることが大事。もっと生徒がつかずいたり、発言や思考したりする場面を今後充実させていくことが課題になる。

##### 題材を通しての成果と課題

- ・マグネットを電子に見立てて自分で操作しながら電子配置を考えたことで、イオンが安定な電子配置になることが理解できた。具体物操作しながら原子の最外殻電子の数に注目したことで、以後の単元(共有結合や分子の極性、金属結合)の学習理解の深まりにつながった。
- ・生活経験が不足していたり、固有名詞が分からなかったりするが、生活の中でよく見かける物質や化合物に関連して学習していることが意識できるように、具体物や写真等をつなぎ、問い掛けや比較等で生徒の考えを引き出すような工夫をしたい。



## 【実践2】小学部 6年3組 総合的な学習の時間

### 「私のまち、広面〜いとく秋田東店へ

### レッツゴー〜」

#### 〈学習計画〉

- 1 事前学習（3）
  - ・家の周り調べ
  - ・インタビュー内容考える※本時
  - ・FAX をする
- 2 いとくへ校外学習（2）
- 3 事後学習（1）

#### 単元の目標

- ・身近な店舗の様子や働く人の工夫を知り、買い物の仕方が分かる。知
- ・店舗見学や働く人へのインタビューを通し、みんなが暮らしやすい地域の在り方を考える。思
- ・身近な店舗と自分の暮らしの結び付きに気付き、進んで地域に関わろうとする意欲をもつ。学

#### 教科の見方・考え方

各教科の見方・考え方を総合的に活用。実社会的・実生活の課題を探究。自己の生き方を問い続ける。

#### 単元シートを使った事前検討より

- ・「自分に結びつける」「興味・関心を高める」工夫が多い。
- ・ねらいにせまるため「考えの方向性を示す」「情報の整理」がポイントになるだろう。



#### 児童生徒の学びの姿

##### 主体的な学び

- ・自分の体験、自分の視点（車椅子の自分だから）の発言  
→学習者の主体的な姿が良かった。  
(★日常生活と結び付ける)

##### 対話的な学び

- ・児童とのやりとりが多く、児童の伝えたいことを引き出していた。  
→問い直し、発問の吟味が素晴らしい。  
(★共に考えを創り上げる)

##### 深い学び

- ・児童のつづやきメモをとり、板書に活用する工夫  
→自分の思考を整理して文章化するために有効だった。  
(★自分の考えを形成)

#### 授業研究会から（課題、改善点、指導助言）

- ◎児童の実生活に結び付いている単元の設定、導入。「いつも行くいとくは、車椅子で一人でも買い物しやすいでしょうか？」の発問が、児童の考えを方向付け、ねらいに迫るのに効果的だった。
- △多様な意見に触れる機会をどのように作るか。
- △教師との対話で、考えを創り上げており素晴らしい。文章で説明する力をもっとつけていくためにどのような手立てが必要か、発問の工夫等、今後類型でもさらに検討したい。

#### 題材を通しての成果と課題

- ・実際に店舗見学に行ったことで、「みんなが買いやすいように商品の配置が工夫されている」「店内が広くて、車椅子でも動きやすい」「お店の人は買いたい物を一緒に探してくれる」ことを実感し、スーパーだけでなく、広面地域全体が「体が不自由な人に優しい町になってほしい」と話すようになった。
- ・この学習を通して感じたことや自分が理想とする環境を周囲に発信するため、「探検、発見、未来に生かせ！」というポスター作りを行った。自分の考えが読み手に伝わるように文章を推敲したり、ポスターを掲示して複数の意見を集めたりすることで、一人学習で終わらないように工夫したい。

## 【実践3】 高等部 2年3組 家庭基礎

### 「食生活のマネジメント」

#### 単元の目標

- 生活の中で食事が果たす役割を理解し、健康的な食事の整え方が分かる。[知]
- 栄養バランスについて考え、一食分の献立を立てる。[思]
- よりよい食生活を送るために自分の食生活と向き合おうとしている。[学]

#### 教科の見方・ 考え方

家族や家庭、衣食住、消費や環境の協力・協同、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点。よりよい生活を営むための工夫。

#### 〈学習計画〉

- 1 食事の役割・食習慣（1）
- 2 栄養バランスの良い食事（※本時1/2）
- 3 調理実習（3）

#### 単元シートを使った 事前検討より

- 実態に合った将来の生活に結びつく学習内容に。教科と自立活動のバランスは？
- 調理実習に結びつけるための本時とのつながりを検討
- 予算についての考えを学習内容に組み入れるか検討

#### 児童生徒の学びの姿

#### 対話的な学び

- 自分の選んだメニューとAさんBさんが選んだメニューを比べる→自分の選んだメニューにも足りない栄養（野菜）があることに気がついた。（★考えを比較）

#### 主体的な学び

- 「コンビニで昼食を選ぶ」という場面設定のわかりやすさ→無駄話をせず集中（★学習課題の設定・提示）

#### 深い学び

- 前時までの学習を板書で確認。栄養の視点から、Aさんへのアドバイスとして野菜を付け加えることを手紙に書く。→前時までの栄養についての学習を思い出し、言葉遣いに気を付けて表現した。（★知識・技能を活用 ★自立活動の視点）
- ワークシートへ記入し自分で説明する。→自分の考えを整理しながら説明。（★自分の考えを形成★自分の思いや考えを結びつける）

#### 授業研究会から（指導助言、成果と課題、改善点）

#### 指導助言 教育専門監：藤原 恵理子

生活面に課題のある生徒が多く入学しており、本校高等部教育課程の編成では家庭基礎を通常より多く配当している。より生徒の日常生活、実態や実情に合わせた実践的な指導内容に重点を置いている。学習効果を高めるために重要な事項は何か、特性に応じた指導方法の工夫がされているかがポイントとなる。今回の題材も生徒の実態や障害特性を考えた学習課題の設定や手立てが工夫されており、生徒の実情に合っていた。そのような様々な工夫を指導案にもっと表現してほしい。

- ◎学習内容を理解し集中して取り組める学習課題の設定だった。学習の積み重ねを板書に示したことで、既存の知識を活用できていた。今後も多様な意見を比べる場を設定していく必要がある。
- ◎△予算について触れながらも今回は栄養に重点を置いたことが、生徒の特性に合っていた。予算を考える時間をもう少し減らし、AさんBさんのメニュー両方を取り上げると栄養についてもっと考えられ、活動量の確保になっただろう。見えにくさに対応した教材の工夫も必要である。
- ◎△生徒のどのつばやきを大切にするのか、めあてに迫るために今後も精選する必要がある。

## 題材を通しての成果と課題

- ・調理実習では「レンチン味噌ラーメン」を作った。生徒からレシピがほしいと要望があり、家でも挑戦しようとしている。生徒の「家事スキルをアップしたい」という願いの実現に近づける実践となった。
- ・板書の工夫が効果的だった。見えにくさの実態を把握し、今後も対応していきたい。
- ・栄養教諭の活用も評価する場面で有効だった。
- ・悪い例を提示し、自分の献立で野菜が足りないことに自分で気付いた。今後も、様々な考え、比較検討できる場の設定を準備したい。考えるポイント（栄養バランス、カロリー、金額等）を示すことで、視点が広がるのではないかとともに考える。

### 3 まとめ

#### (1) 成果と課題

##### ①単元（題材）構想シートの活用

単元（題材）の目標、教科の見方・考え方、主体的・対話的で深い学びの実現のための学習者の視点と授業者の視点を盛り込み（※資料（1）（2））、単元全体を見渡して授業づくりができるようにした。授業者にとっては、授業のイメージを考え、整理し、授業のスタートとゴールが明確になり、中間で見直すことができるようにしたことが成果として挙げられる。目標や主・対・深の各視点を意識したことで授業のポイントとなる視点が浮かび上がり、ポイントを絞って成果や課題を検討することができ、授業検討会では話合いのツールとしても有効であった。

##### ②チームで取り組む授業づくり

授業実践に向けて、類型の研究グループ以外で意見を聞きたいメンバーを授業者と相談し、前年度の教科の担当者や学級担任等に入ってもらい、チームづくりを行った。多様な意見を出し合い、授業者がその中から取捨選択し授業を組み立てることができた。I 類型は児童生徒や担任する教師の人数が少ないため、教科としての教材研究の深まりが課題となっている。今後もチームづくり、授業を見合う機会や授業づくりの在り方を検討する必要がある。

##### ③その他授業づくりに関して

- ・生活経験や実体験の少なさから経験を補い、子どもが主体的に取り組む手立てとして、実際に手を動かしたり、活動したりする体験的な学習の重要性を確認し、手立てを検討した。
- ・昨年度の研究から課題として挙げられていた深い学びの視点（「自分の思いや考えを形成」→「表現する・言語化する」）に注目し、I 類型の子ども達に身に付けてほしい力として手立てを検討したり、実践を紹介し合ったりすることができた。
- ・児童生徒の実態把握の難しさから、学校に登校し授業に参加するための基盤となるところの自立活動の重要性が課題となるケースもあり、実態に応じた授業づくりの視点も検討していく必要がある。

## (2) 次年度に向けて

- ・ 単元（題材）構想シート（視点表含む）を活用したことで、主体的・対話的で深い学びの実現のために授業を組み立てていくという意識ができてきている。シートを継続して使うことにより、より成果や課題が見えてくると考えられる。今後、普段の授業づくりでどのように「単元（題材）構想シート」を活用していくか、項目を絞るなどして使いやすくできるか等、検討が必要である。
- ・ I 類型の授業づくりでは、児童生徒や担任する教師の人数が少なく担当する教科の相談をし合うことができなかつたり、準ずる教育課程の指導経験が浅かつたりして、日々授業の進め方に悩むことがある。他類型や3校との連携を図り、チームづくりを検討していきたい。次年度には、早い時期に授業を見合って学び合う機会を確保できるよう検討したい。普段の授業づくりが深まるよう、授業検討会では目的意識をもって進めていくことも継続させたい。
- ・ 本校の I 類型に在籍する児童生徒は、障害の多様化に加えて、発達障害や境界線～軽度知的障害を併せもつ児童生徒が増えている現状である。そのため自立活動の視点で情緒の安定を図りながら授業を組み立てる、教科の内容を基礎・基本に絞る、または下学年対応に近い課題設定にするなど、各学部の児童生徒の発達段階に応じた視点も必要になるため、教科の指導力向上と併せて、児童生徒一人一人の発達段階に応じて授業づくりも検討していく必要がある。

### 【参考引用文献】

- ・ 広島県教育委員会 ホットライン教育ひろしま『各教科等における見方・考え方（小・中学校）』  
<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/uploaded/attachment/602410.pdf>

R6年度 シート① I 類型単元 (題材) 構想シート ※単元を始める前に作成する～P D C A～

〈教科〉単元 (題材) 名 / 学習内容		目標	評価◎○△
( 家庭基礎 ) 第9章 食生活のマネジメント ・食生活の見直し、食事の役割の認識 } 【1】 ・規則正しい食生活の大切さ、健康への影響 } 【2】 ・栄養バランスのよい食事 } 【3】 ・調理実習 (計画、実習、振り返り)		【知】 生活の中で食事が果たす役割について理解する。 基礎的な日常食の調理ができる。 【思】 一日分の献立について考え、工夫する。 【学】 よりよい食生活を送るために自分の食習慣に向き合おうとしている。 自分の生活を振り返り、課題解決に取り組もうとしている。	◎ △ ○ ◎ ◎
計 6時間			
教科の見方・考え方 家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫すること			
学習者の視点 (N I T S独立行政法人教育支援機構 「主体的・対話的で深い学び」の姿より)		授業者の視点 (R5授業実践から)	各視点での手立て・どのように学ぶか
① 興味や関心を高める ② 見直しをもつ ③ 自分と結び付ける ④ 粘り強く取り組む ⑤ 振り返ってつなげる	・前時の振り返りと本時のつながり ・日常生活と結び付けた導入の工夫 ・学習課題の設定・提示の工夫 ・やり方、考え方の方向性の提示 ・適度な難易度・分量の活動、十分な課題の準備 ・教師とのやり取り ・本時の振り返りと次時の見直し	・栄養教諭の活用、課後、評価など ・自分の生活スタイル、生活の流れに沿った活動 ・生徒の発言「家事スキルをアツクさせたい」 ・予算について、どのような位置づけで行うのか →予算も大事な視点だが今回は栄養について考えられるように ・学習計画の立案	
★ ① お互いの考えを比較する ② 多様な情報を収集する ③ 思考を表現に置き換える ④ 多様な手段で説明する ⑤ 先哲の考え方を手掛かりとする ⑥ 共に考えを創り上げる ⑦ 協働して課題解決する ⑧ 思考して問い続ける ⑨ 知識・技能を習得する ⑩ 知識・技能を活用する ⑪ 自分の思いや考えを結び付ける ⑫ 知識や技能を概念化する ⑬ 自分の考えを形成する ⑭ 新たなものを創り上げる ⑮ 着目した視点に○、ポイントに★→	・児童生徒同士のやり取り ・情報を整理して示す ・言葉で話す、説明する場の設定 ・教師との対話、やり取り ・教師の発問、言葉掛け、提案、つぶやきへの応え方等 ・児童生徒自身の自分との対話 ・教師の働き掛け ・既存の知識・学習と関連付ける、結び付ける ・表現できる・言語化する場の設定とそのための手立て ・提示が「整理して提示、話したこと・発表したことを板書で残す」 ・自分のペースで取り組む、思考する時間の確保 ・自分で考えるためのヒントや材料、視点的提示 ・学んだことをまとめる活動の時間 ・学びを実感させる即時評価	・比較する →自宅の食事との →給食との →良い例、悪い例との比較など ・提示のしかた →写真カード？ロイロノート？給食の写真や自宅の食事の比較？・・・ ・ワークシートへの記入？	
主体的な学び			
対話的な学び			
深い学び			

<p>〈教科〉 単元(題材) 名</p>	<p>〈 家庭基礎 〉 食生活のマネジメント</p>	<p>授業者の視点 (R5授業実践から)</p>	<p>手立ての評価、今後に向けた手立て</p>
<p>学習者の視点 (N.T.S.独立行政法人教育支援機構 「主体的・対話的で深い学び」の姿より)</p> <p>① 興味や関心を高める ② 見通しをもつ ③ 自分と結び付ける ④ 粘り強く取り組む ⑤ 振り返ってつなげる</p>	<p>児童生徒の様子・姿勢</p> <p>・前時のキーワード(板書より)を活用して考えていた。</p>	<p>○ 前時の振り返りと本時のつながり ○ 日常生活と結び付けた導入の工夫 ・学習課題の設定・提示の工夫 ・やり方、考え方の方向性の提示 ・適度な難易度・分量の活動、十分な課題の準備 ・教師とのやり取り ・本時の振り返りと次時の見通し</p>	<p>◎板書に前時の内容を提示したこと ◎卒業後、日常生活で使うであろうコンビニでの買い物を設定したこと</p>
<p>主体的な学び</p> <p>★ ① お互いの考えを比較する ② 多様な情報を収集する ③ 思考を表現に置き換える ④ 多様な手段で説明する ⑤ 先哲の考え方を手掛かりとする ⑥ 共に考えを削り上げる ⑦ 協働して課題解決する</p>	<p>・献立例(Aさん、Bさん)に対する自分の考えを述べていた。 →自分の考えた献立に野菜が足りないことに気がついた。</p>	<p>○ 情報を整理して示す ・言葉で話す、説明する場の設定 ・教師との対話、やり取り ・教師の疑問、言葉掛け、提案、つぶやきへの応え方等 ・児童生徒自身の自分との対話</p>	<p>◎悪い例を提示から、既存の知識を活用して改善することに結びついた。 ◎手紙形式でAさんに感想を伝えることで、自己評価に結びついた。 ◎△様々な考えに触れる、比較検討する場の設定 △幅広い視点で考えるための手立て ○予算については重きを置かず触れ、栄養について考えられるように配慮した。</p>
<p>対話的な学び</p> <p>① 思考して問い続ける ② 知識・技能を習得する ③ 知識・技能を活用する ④ 自分の思いや考えを結び付ける ⑤ 知識や技能を概念化する ⑥ 自分の考えを形成する ⑦ 新たなものを削り上げる</p> <p>↑◎(よくできた)、○(できた)、 ★(課題・ポイント)等でチェック</p>	<p>・Aさんへの手紙に、丁寧な言葉遣いを考えながら、自分の考えを書いていった。</p>	<p>・教師の働き掛け ・既存の知識・学習と関連付ける、結び付ける ・表現できる、質問化する場の設定とそのための手立て ・<b>強要的</b>に整理して提示、話ししたこと・察知したことを板書で示す ・自分のペースで取り組む、思考する時間の確保 ・自分で考えるためのヒントや材料、<b>観点の提示</b> ・学んだことをまとめる活動の時間 ・学びを実感させる即時評価</p>	<p>◎写真カード、板書やモニター、提示物の活用 △生徒の見え方の実態把握、見やすい提示のしかた △考えるポイントを示すことで、視点が広がるのでは？</p>
<p>まとめ</p> <p>児童生徒の様子・姿勢</p> <p>・「みそラーメン作りは家でもできそう。手順表を下さい。」という生徒の発言があった。 ・授業に関係ないこと等多く話すことが多かったが、時間いっぱい集中して取り組みることが増えた。</p>	<p>有効だった手立て・課題</p>	<p>◎板書やモニターでの提示 ◎栄養教諭の活用 ◎悪い例の比較→自分の献立に野菜が足りないことに自分で気付くことに結びついた。 △生徒の見え方の実態把握→斜めのは見にくく、正面が見やすい。正面に提示する。 ◎△今後と比較検討できる場の設定→さらに、考えるポイント(栄養バランス、カロリー、金額等)示すことで視点を広げられるようにしたい。</p>	

## Ⅱ 類型グループ (知的代替の教育課程)

### 研究対象教科「小学部：生活科」「中学部：社会科」「高等部：職業科」

#### 1 研究経過

実施日	項目	主な内容	STEP
5/28 (火)	グループ研究会①	・今年度のグループ研について →研究計画や授業づくりのSTEPについての確認と今年度のグループ研についての意見交換	
5/31 (金)	授業検討会 ☆小学部生活科	・授業についての検討と単元(題材)構想シートの作成	STEP1
6/4 (火)	授業検討会 ◇中学部社会科	・授業についての検討と単元(題材)構想シートの作成	STEP1
6/7 (金)	指導案検討会① ☆小学部生活科	・授業のねらい、単元計画などの大枠を決定	STEP2
6/7 (金)	指導案検討会① ◇中学部社会科	・授業のねらい、単元計画などの大枠を決定	STEP2
6/18 (火)	グループ研究会② 指導案検討会② ☆小学部生活科 ◇中学部社会科	・多面的な視点による授業づくり →「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の3つの視点で話し合い	STEP3
	研修会	「単元の評価と生徒の変容について～エピソード記録～」 ・研究の内容や方法についての助言	
7/11 (木)	グループ研究会③ ◇中学部社会科	中学部2・3年1組「生活のきまり～みんなのためにごみをわけ隊～」	STEP4
7/16 (火)	授業提示・研究会	・授業の見取りと改善策の提案 →生徒の様子「事実」とそれに対する参観教師の「考察」	
7/16 (火)	グループ研究会③ ☆小学部生活科	小学部4年1組「わたしたちのまわりのひとたち～「〇〇のプロ」を見つけよう～」	STEP4
7/18 (木)	授業提示・研究会	・授業の見取りと改善策の提案 →児童の様子「事実」とそれに対する参観教師の「考察」	
8/20 (火)	授業検討会 □高等部職業科	・授業についての検討と単元(題材)構想シートの作成	STEP1
8/22 (木)	グループ研究会④ 事例報告 ☆小学部生活科 ◇中学部社会科	・単元の評価と児童生徒の変容 →児童生徒の資質・能力の向上などの評価	STEP5
8/30 (金)	指導案検討会① □高等部職業科	・授業のねらい、単元計画などの大枠を決定	STEP2
9/10 (火)	グループ研究会⑤ 指導案検討会② □高等部職業科	・多面的な視点による授業づくり →「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の3つの視点で話し合い	STEP3
10/23 (水)	グループ研究会⑥ □高等部職業科 授業提示・研究会	高等部3年1組「卒業後の生活～余暇 Part 2『大人の休日充実くらぶ』～	STEP4
		・授業の見取りと改善策の提案 →生徒の様子「事実」とそれに対する参観教師の「考察」	
11/18 (月)	グループ研究会⑦ 事例報告 □高等部職業科	・単元の評価と児童生徒の変容 →児童生徒の資質・能力の向上などの評価	STEP5
12/10 (火)	グループ研究会⑧ 事例紹介	・各学部の児童生徒の変容についての事例紹介 ・今年度のグループ研究についての評価等	STEP5 + α
1/17 (金)	グループ研究会⑨	・今年度のグループ研のまとめ	
2/12 (水)	グループ研究会⑩	・次年度の研究についての意見交換	

## 2 研究実践

### (1) チームとしての取組

#### 【授業づくりにおけるプロセスのSTEPと内容】

##### <STEP 1> 授業についての検討と「単元（題材）構想シート（P29）」の作成

- ・メンバー構成：授業者・類型チーフ・研究部
- ・授業者が児童生徒の実態や目指す姿、取り上げたい内容など、大まかな構想を基に、類型チーフ、研究部など、複数のメンバーで単元構想をした。教科の見方・考え方などの視点を押さえ、単元や活動内容、学習した内容のまとめ方についての話し合いを行った。また、昨年度作成した視点表も併せて活用した。これらを基に、「単元（題材）構想シート」を作成・活用しながら単元を練り上げた。

##### <STEP 2> 指導案検討会①

- ・メンバー構成：STEP 1 のメンバー＋教育専門監
- ・教育専門監の助言のもと、単元構想がブラッシュアップされ、授業の大枠を決定した。単元計画、実態に合ったねらいの絞り込みを行った。

##### <STEP 3> 指導案検討会②

- ・メンバー構成：グループ全体
- ・「単元（題材）構想シート」を基に、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点で授業検討を行った。児童生徒の実態については、普段の授業の様子（VTR）を参考資料として提示した。深い学びの捉えや目指す姿の妥当性なども話題となった。

##### <STEP 4> 授業研究会

- ・メンバー構成：グループ全体
- ・指導助言者：秋田大学 前原和明氏、教頭、教育専門監
- ・授業研究会において話題となった改善策をもとに授業改善を行った。また、小グループにおける話し合いの内容をまとめ、具体的な改善策（アドバイス）を考えた。

##### <STEP 5> 単元（題材）の評価と生徒の変容

- ・メンバー構成：グループ全体
- ・「単元（題材）評価シート（P30）」を作成し活用した。「単元（題材）評価シート」とは、単元終了の段階で、本単元（題材）で学習したことを、今後の生活の中で活用できることを「期待する姿」として具体的に考え、記した。また、エピソード記録として定期的に記入できるようにした。しかしながら、学習した知識・技能を生かすことができるよう、場面設定や手立ての考案が必要であった。

#### 【授業づくりに関する研修会】

テーマ：「単元の評価と生徒の変容について～エピソード記録～」 講師：教育専門監 藤原恵理子

- ・知的障害の各教科は「児童生徒が自立と社会参加するために必要な【知】【思】【学】を身に付けるための目標と内容。教科の計画を立てることは、おのずと生活に関わる内容になる。→授業自体が生活に密接した内容となる、
- ・研究のゴールは授業づくり・授業改善（主・対・深の学び）を通して児童生徒の資質・能力を育むこと。授業の評価については、「児童生徒の姿がどうだったのか」の評価を基に、授業改善がなされる。なぜ、その姿が見られたか、背景や効果的な手立てを考察すること→エピソード記録

<実践1>

小学部4年1組 生活科

「わたしたちのまわりのひとたち～「〇〇のプロ」を見つけよう～」

単元について

○単元目標

- ・学校の中に、様々な仕事をしている人がいることに気付く。【知】
- ・自分の周りにはいる人と、自分の生活の結び付きに気付く、その内容を言葉で表したり、「プロカード」を用いて「プロ」に依頼をしたりする。【思】
- ・学校の中にいる人たちやその仕事の内容に興味・関心をもつ。【学】

○生活科の段階や指導内容

- ・小学部2段階才役割  
(ア) 身近な人を知り、教師の援助を求めながら挨拶や話などをしようとする。

○単元等の概要

- ・児童の身近にいる教師や職員を題材に取り上げる。職員の仕事に着目し、話を聞く場を設定することで、児童が身近な人に対して関心をもつとともに、自分から関わる経験を増やすことができる。
- ・「〇〇のプロ」を探す活動を通して、身近な人の仕事や得意なこと、好きなことを知ることで、相手のよさを実感するとともに、身近な仕事への関心を高めることができると考える。
- ・職員から聞き取った情報を、自身の生活と結び付けで考えることで、困ったことがあったときに助けになる存在に気付いたり、自分自身の好きなことや得意なことを省みたりする姿が期待できる。
- ・身近な人への関わりから、自分の長所の自覚や仕事に対する基礎につながると思える。

児童の目指す姿

- ・人との関わりを好み、適切な関わり方の習得を目指している。自分の周りには仕事をしている人がいることに気付く、自分の生活と結びつけて考えたり、仕事の内容に興味・関心をもったりすることを目標としている。

単元構想  
指導案検討会より

- ・単元のゴールにプロカードを活用する場面設定。
- ・「プロ」の定義づけ。「仕事」「好きなこと」を絞ることも大事ではないか。

児童生徒の学びの姿

主体的な学び

- ・プロを探す。
- ・プロカード収集の期待感  
→学習意欲の向上

対話的な学び

- ・個々の実態に応じたコミュニケーションツールの活用
- ・学習を積み重ね  
→進んでインタビューする姿

深い学び

- ・体験を自分のものにする。
- ・カードを他学年の児童に紹介
- ・他の教科等とのつながり
- ・感謝される経験や体験  
→自己肯定感UP



授業研究会から（課題、改善点、指導助言）

- パターン化した学習の流れがあることで、見通しがもてていた。
- △板書の工夫：情報量の精選や児童の手元にあるプロカードを同様式の掲示物を活用しては。
- △まとめのあり方：言葉カードなどを切り貼りして子どもたちと一緒に作り上げてみては。

題材を通しての成果と課題

- 「プロカード」と連動した形で板書をまとめる。（授業改善）
- ・音楽の時間にカードを活用して「うたのプロ」を招いたことで、自分たちが見つけたという自信と周囲にいる人に依頼する良さを感じることができた。
  - ・「プロ探し」を繰り返すことで、「体育のプロは〇〇先生かも」など、児童の気付きにつながった。
  - ・校内でプロを見つけると「見つけた！」と目を見開いたり、挨拶したりする姿が見られた。
  - ・「次は何のプロ？」など、次時の学習に期待感をもったり、友達や先生の得意なことに気付き「プロ」と表現したりする様子が見られるようになった。

単元（題材）評価シートを活用したエピソード記録

Ⅱ類型：単元（題材）評価シート～生活科

単元（題材）名 私たちのまわりの人たち ～「〇〇のプロ」を見つけよう～

児童生徒の実態	単元（題材）の目標 【知】【思】【学】	単元（題材）について ～やりたい活動内容～
<ul style="list-style-type: none"> <li>・人と関わることが好きだが、緊張したり適切な関わり方が分からなかったりする。</li> <li>・「友達」が好き。・自信がない活動には消極的。</li> <li>・見たいものははっきりしている。</li> <li>・知らないことの原因を知りたい気持ちがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の周りに様々な仕事をしている人がいることに気付く。</li> <li>・自分の周りにいる人と自分の生活の結びつきに気付き、言葉で表したり、カードを分類したりする。</li> <li>・自分の周りにいる人たちや仕事の内容に興味・関心をもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校探検「きらりのプロ」探し</li> <li>・「きらりのプロ」にインタビュー</li> <li>・「プロカード」集め</li> </ul>

指導内容 単元（題材）の評価 ～単元終了時～

単元（題材）の評価 児童の変容	単元（題材）の評価 ～単元終了時～
<ul style="list-style-type: none"> <li>→授業者：記述</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「プロカード」と連動した形で板書をまとめる。（授業改善）</li> <li>・音楽の時間にカードを活用して「うたのプロ」を招いたことで、自分たちが見つけたという自信と首位にいる人に依頼する良さを感じることができた。</li> <li>・「プロ探し」を繰り返すことで、「体育のプロは〇〇先生かも」など、児童の気付きにつながった。</li> <li>・校内でプロを見つけると「見つけた！」と目を見開いたり、挨拶したりする姿が見られた。</li> <li>・「次は何のプロ？」など、次時の学習に期待感をもったり、友達や先生の得意なことに気付き「プロ」と表現したりする様子が見られるようになった。</li> </ul>

日常生活と関連付けて ～教科で学んだことを日常生活で生かす姿～

期待する姿 （こんな姿が見られるといいな）	児童の変容 ～エピソード記録～	
	10月末	12月末
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分から廊下ですれ違う教師に挨拶する姿</li> <li>・自分の身の回りの先生や友達に興味関心をもつ姿</li> <li>・自分のよさや得意について（後期の生活科で取り扱う内容）考える姿</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「〇〇のプロだよ」などと教師に促されることで、顔を見てはっきり挨拶できるようになった。</li> <li>・次にインタビューしたい先生を、児童から話すようになった。「〇〇先生は、〇〇のプロかな」などと、予想を立てて楽しみにするようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インタビューをした職員に、自分から挨拶する姿が見られた。インタビューをした職員が、積極的に話し掛けてくれたこともあり、児童にとって、身近な職員になった様子である。</li> <li>・廊下ですれ違う人に、自分から会釈やタブレットで挨拶をするようになった。</li> <li>・「〇〇先生にまた授業に来てほしい」「〇〇を教えてほしい」など、「プロ」にしてほしいことを、自分たちから話すようになった。</li> <li>・自分の好きなことを、簡筆書きで挙げる事ができた。「〇〇が上手だよね」などと、教師に言われると、うなずいたり、照れた様子で首をかしげたりしていた。</li> </ul>

「生活のきまり～みんなのためにごみをわけ隊～」

単元について

○単元目標

- ・「家庭ごみ」と「資源ごみ（ペットボトル）」のごみの種類が分かる。[知]
- ・ごみの種類に合わせて、ごみを分ける。[思]
- ・自分から進んでごみを分けて、きれいに生活しようとする気持ちをもつ。[学]

○社会科（生活科）の段階や指導内容

- ・小学部生活科3段階ケきまり  
(ア) 日常生活の簡単なきまりやマナーが分かり、それらを守って行動しようとする事。  
(イ) 簡単なきまりやマナーに関する知識や技能を身に付けること。

○単元等の概要

- ・ごみ捨ては、学校生活だけでなく社会生活全般に行う行動である。
- ・家庭生活で使用する、家庭ごみや資源ごみの袋があることが分かり、袋に合うごみを自分で判断できるようにしてほしいと考えた。
- ・ごみを正しく捨てることは、周りの人にも喜ばれ、自信にもつながるだろう。
- ・気付いたごみを捨てようとする姿が見られるようになってほしい。

生徒の目指す姿

昨年度、ごみ処理場を見学し、ごみについての関心をもち始めている。家庭ごみと資源ごみの種類に合わせてごみを分けたり、進んでごみを分けてきれいに生活する気持ちをもったりすることを目標としている。

単元構想  
指導案検討会より

- ・ごみの分別が人の役に立つことにつながることを単元の導入で提示
- ・分別の見本や写真、手掛かりとなるマークに着目できるような教材の工夫



児童生徒の学びの姿

主体的な学び

- ・技師さんの役に立つという動機付け
- ・具体物を用いた活動  
→進んで活動に取り組む姿

対話的な学び

- ・友達が分別する様子を見て、アドバイスの場面づくり
- ・やり取りの文言を提示  
→友達とともに学ぶ姿

深い学び

- ・誰かの「役に立つ」ために仕分ける。
- ・誰かの「役に立ちたい」という気持ち
- ・普段の生活とつなげ、身の回りをきれいにする。

授業研究会から（課題、改善点、指導助言）

- 具体物を活用することで、「仕分けをしたい」という気持ちを引き出すことができた。
- △間違えたときに教師が正答へ導こうとするリードが強かった。
- △振り返り動画の活用の仕方：見せる場面を絞ったり、見るポイントを提示したりするといいいのでは。

題材を通しての成果と課題

- ・食べたり飲んだりすると空になったものが「ごみ」であることが認識できていた。
- ・技師さんに実際に分ける場面を見てもらい、感謝されたことで自信につながった。
- ・自分からごみを捨てるという行動が強くなった。
- ・「ペットボトル」やごみを「分ける」などの言葉を覚え、ごみを分けて捨てるようになった。

単元（題材）評価シートを活用したエピソード記録

Ⅱ類型：単元（題材）構想シート～社会科

単元（題材）名 生活のきまり～みんなのためにごみをわけ隊～

<p><b>児童生徒の変容</b></p> <p>2年生1名、3年生3名の計4名で構成。3名は簡単な指示や日常会話が分かり、言葉でのやり取りができる。1名は、主に表情や体の動きで意思を伝える。4名とも初めての活動には慎重だが、物事への興味・関心は高い。ごみの分別は、場面やごみ箱が通常と違うなどの変化があると、自分で判断することは難しい。昨年度、ごみ処理場を見学し、ごみについての関心をもち始めている。</p>	<p><b>単元（題材）の目標 【知】【思】【学】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「家庭ごみ」と「資源ごみ（ペットボトル）」のごみの種類が分かる。【知】</li> <li>・ごみの種類に合わせて、ごみを分ける。【思】</li> <li>・自分から選んでごみを分けて、きれいに生活しようとする気持ちをもつ。【学】</li> </ul>	<p><b>単元（題材）について ～やりたい活動内容～</b></p> <p>ごみ捨ては、学校生活だけでなく社会生活全般に行う行動である。家庭生活で使用する、家庭ごみや資源ごみの袋があることが分かり、袋に合うごみを自分で判断できるようになってほしいと考えた。ごみを正しく捨てることは、周りの人にも喜ばれ、自信にもつながるだろう。気付いたごみを捨てるようとする姿が見られるようになってほしい。</p>
---	---	---

指導内容 単元（題材）の評価 ～単元終了時～

<p>単元（題材）の評価 生徒の変容</p> <p>→授業者：記述</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食べたり飲んだりすると空になったものが「ごみ」であることが認識できていた。</li> <li>・技師さんに実際に分ける場面を見てもらい、感謝されたことで自信につながった。</li> <li>・自分からごみを捨てるという行動が強くなった。</li> <li>・「ペットボトル」やごみを「分ける」などの言葉を覚え、ごみを分けて捨てるようになった。</li> </ul>
---	--



日常生活と関連付けて ～教科で学んだことを生かす場面づくりと生徒の変容～

<p><b>期待する姿</b> (こんな姿が見られるといいな)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペットボトルと家庭ゴミを分けて捨てる</li> <li>・ごみがあれば自分で捨てる</li> </ul>	<p><b>生徒の変容</b> ～エピソード記録～</p> <p>学習後</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お茶が少し入っているペットボトルを見せ「これは何ですか？」と教師が尋ねると、「お茶」と答えた。続けて、教師がその入っていたお茶を飲み干し「これは何ですか？」と尋ねると、少し考えてから「ごみ」と答えた。その後、空になったペットボトルを捨てる行動を始めた。</li> <li>・ペットボトルを手にすると、ラベルを剥がそうとしていた。「どうしたいの？」と尋ねると、ラベルを見つめながらペットボトルを教師の顔に近づけて、「燃えるごみ」と話した。教師が剥がしたラベルを握ると、迷いなく家庭ごみ袋の前に移動して入れた。残ったペットボトルを手にすると、資源ごみの袋の前に移動し、すっと入れた。</li> <li>・空のプラスチック容器を手にすると、少し考えて資源ごみに捨てるようすが、違うと感じたのか手掛かりを探し始めた。ごみの分類表の写真を見て、該当するものを見つけて、「燃えるごみ」と言葉を発して、家庭ごみ袋の前に移動し、自信をもった表情で捨てた。</li> <li>・「また、ごみがあったら捨ててくれますか？」と技師さんからの言葉を受けると「捨てます」「また、やります」と笑顔と元気な声で答えた。</li> </ul>
--	--

## 高等部3年1組 職業科

### 「卒業後の生活 ～余暇 Part 2 「大人の休日充実くらぶ」～」

#### ○単元目標

- ・卒業後の豊かな生活の実現に向け、どのような余暇の選択肢があるのかを考えたり、地域で利用できる施設やサービスについて知ったりする。【知】
- ・自分の興味や得意なこと、活用できる地域資源などから、自分に合った余暇の過ごし方について考えたり選択したりする。【思】
- ・実践や友達との意見交換を通して、卒業後も社会とつながっていることを感じたり、自分の生活にどう生かすかを考えたりする。【学】

#### ○職業科の段階や指導内容

- ・高等部職業科1段階ウ 家庭生活における健康管理と余暇  
(イ) 望ましい生活環境や健康及び様々な余暇の過ごし方について気づき、工夫すること。

#### ○題材等の概要

- ・卒業後の豊かな生活を目指し、余暇の選択肢を広げることを目的としている。具体的には、先輩から青年学級や地域資源の活用についての話を聞いたり、調べたりした内容を冊子にまとめる。
- ・ICTを使った余暇活動も取り上げる。
- ・学習を通して、自分の「やりたいこと」を見つけて伝える力や、情報を集めて余暇を充実させようとする意欲を高められると考える。

#### 児童の目指す姿

- ・卒業後の豊かな生活の実現に向け、どんな余暇の選択肢があるのかについて知る【知】
- ・挙げた選択肢について、卒業後の生活で利用するための課題や解決方法について考える。【思】
- ・実践や友達との意見交換を通して、自分の生活にどう生かすかを考える。【学】

#### 題材構想 指導案検討会より

- ・育みたい資質・能力、どんな姿になってほしいか。
- ・興味・関心の整理。生活に根付く授業づくり。
- 単元・焦点化。
- ・深い学び～学んだことを家で体験。家庭の協力を依頼。

#### 児童生徒の学びの姿

##### 主体的な学び

- ・調べたこと（余暇活動）を実際に疑似体験する姿
- ・関心のあることを進んで調べる姿

##### 対話的な学び

- ・友達の調べた余暇活動について情報共有する姿
- ・依頼する相手と依頼する内容を考え、自分から依頼する姿

##### 深い学び

- ・地域や外部とのつながり。
- ・調べたことや実践する姿
- ・一人一人の豊かな生活へつながる姿



## 授業研究会から（課題、改善点、指導助言）

- 楽しそうなネーミングのパンフレットづくりに集中し、主体的に取り組んでいた。
- これまでの学びや経験がしっかりと積み重ねられている。
- △自分で具体的に計画（交通手段、チケットの購入方法など）ができるような学習への発展。
- △ICTの活用（実態に応じた入力・表出方法）
- ◆障害者の社会参加の観点や障害者が社会参加するにあたって必要なスキルや支援について考える必要がある。
- ◆個人と社会が相互関係する役割理論を用い、何らかの役割を果たすことでキャリア発達を促すことが必要。
- ◆ライフキャリアの視点からキャリア発達を捉える。卒業後も充実した余暇を過ごすことができるよう、個人のスキルアップ、他者の働き掛け（自分と人との関係性）、周囲の環境整備の3つの観点で考察する重要性。
- ◆卒業後も活用できる冊子づくりをテーマも取り組んでいたが、この活動を3つの視点から捉えることで、個々のキャリア発達についてより具体的に考えることができるのではないかと感じる。

## 題材を通しての成果と課題

- 余暇の過ごし方について関心をもち、情報を集めて余暇をより豊かにする意欲を高めることができた。→具体的には、日常会話の中で話題にするようになったり、「自分で考えよう」「調べてみよう」とする姿が見られたりするようになった。）
- 自分で調べることで関心が広がり、家庭でも話題にしたり家族と一緒に出かけたりする生徒もいた。→地域の施設の利用に関して、本人だけでなく家族のハードルも下がったと感じる。
- 卒業後の余暇活動の実践に関しては、保護者の協力が必要になる。本人が自分で「やりたい」と思ったことを相手（家族）に伝える力の育成や生徒によってはICTを使った活動（調べる際に一人では難しいため）などへのフォローが必要だと感じる。

## 単元（題材）評価シートを活用したエピソード記録

単元（題材）名 卒業後の生活について考えよう～余暇 Part 2 「大人の休日充実クラブ」～

児童生徒の実態	単元（題材）の目標 【知】【思】【学】	単元（題材）について ～やりたい活動内容～
<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業を目前にした高3生として、実習や校外学習等の体験を重ね、卒業後の生活について大きな見通しをもって</li> <li>前期に卒業後の余暇生活について考える学習を行い、「卒業後は余暇時間が増える」ことを知った。生徒から「自由時間に何をすればいいかわからない」という意見もあったため、余暇の過ごし方についてできることを考えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業後の豊かな生活の実現に向け、どんな余暇の選択肢があるのかについて知る【知】</li> <li>挙げた選択肢について、卒業後の生活で利用するための課題や解決方法について考える。【思】</li> <li>実践や友達との意見交換を通して、自分の生活にどう生かすかを考える。【学】</li> </ul> <p>※体験は「生単」で、まともは「職業」で行う予定。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業後の「豊かな生活」について知る、考える。</li> <li>前期の校外学習で行った「公共施設の利用」とからめて、卒業後もタブレット端末を使うことで青年学級（同窓会）に参加できることや、社会とつながっていきけることなどを知る。（ZOOMの操作を覚える、知りたい情報の調べ方を覚える、メタバースについて知る、など）</li> <li>実際に利用するための方法（福祉サービスもあるよ）等について考えたり調べたり…</li> <li>「卒業後」にヒントとなる余暇カタログ作り。</li> </ul>

指導内容 単元（題材）の評価 ～単元終了時～

単元（題材）の評価 生徒の変容	単元（題材）の評価 生徒の変容
→授業者：記述	<ul style="list-style-type: none"> <li>○余暇の過ごし方について関心をもち、情報を集めて余暇をより豊かにする意欲が高まった。 →日常会話の中で話題にするようになったり、「自分で考えよう」「調べてみよう」とする姿が見られたりするようになった。</li> <li>○自分で調べることで関心が広がり、家庭でも話題にしたり家族と一緒に出かけたりする生徒もいた。 →地域の施設の利用に関して、本人だけでなく家族のハードルも下がったと感じる。</li> <li>●卒業後の余暇活動の実践に関しては、保護者の協力が必要になる。本人が自分で「やりたい」と思ったことを相手（家族）に伝える力の育成や生徒によってはICTを使った活動（調べる際に一人では難しいため）などへのフォローが必要だと感じる。</li> </ul>

日常生活と関連付けて ～教科で学んだことを生かす場面づくりと生徒の変容～

期待する姿 (こんな姿が見られるといいな)	生徒の変容 ～エピソード記録～	
	10月末	12月末
<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の余暇の過ごし方は自分で決めていいことを知り、自分からやりたいことを調べたり「〇〇したい」と家族や教師に伝えたりする。（自分がやりたいことに向かって、自分から行動する姿）</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>11月29日（金）イオンモール秋田への校外学習。「自分で」何をしたいか考え、調べ、当日は半分自由行動で食事や買い物を楽しんだ。実際に体験することで「電動を操作して、一人でエレベーターに乗ることができる」「昼食を食べ過ぎるとおやつが食べられない」など、それぞれ新しい発見があった。</li> <li>11月16日（土）の青年学級への参加。今回は1名の参加だったが、学習を通して本人だけでなく保護者の意識の変化も感じた。</li> <li>生徒が余暇の「やりたいこと」で挙げた外出先に、実際に行ってくれた家庭もあった。生徒が自分から「行きたい」と言えるようになった成果か…？</li> </ul>

### 3 まとめ

#### (1) 成果

##### ①ねらいの明確化（チームで取り組む授業づくり）

- ・STEP 1、2では、児童生徒の実態がよく分かる教師同士での話し合いを通して、ねらいが整理され、授業のポイントを絞られた。また、授業者以外の教師から、様々な視点でアイデアをもらい、授業者自身が精選・検討することで、単元構想のブラッシュアップできた。また、STEP 3ではより、多面的な視点で授業のアイデアをもらうことができた。

##### ②多面的な視点での授業のアイデア（チームで取り組む授業づくり）

- ・STEP 4の授業研究会では、授業参観を通して、優れた実践のよいところを自身の授業づくりの手掛かりにしたり、手立てや支援の方法などを参照したりできたという成果が得られた。また、自身の学部以外の授業を参観することで、現段階における指導と先を見据えた指導の視点などを考えることへもつながった。

##### ③「単元（題材）評価シート」を基にした児童生徒の「期待する姿」

- ・単元（題材）の終わりに、評価シートを作成し、単元で得た知識・技能が日常生活場面でも生かすことができるような機会や児童生徒の姿を考えた。これを「期待する姿」とし、児童生徒の変容を定期的に見取り、エピソード記録としてまとめた。

#### (2) 課題と次年度に向けて

##### ①児童生徒の深い学びの姿と評価の規準

- ・深い学びの実現に向けて、評価規準「達成したい姿（仮）」を教師間で具体的に共通理解しておく必要があった。単元のゴール段階で、児童生徒がどのような姿になっていることがよいかを十分に検討し、また、妥当性についても吟味しておかなければならない。今年度は授業づくりのPLAN段階に特に焦点を当てて実践してきたが、評価の在り方についても重視する必要があった。

##### ②深い学びの実現ための教科の「見方・考え方」

- ・STEP 1、2の単元構想段階では教科の「見方・考え方」を働かせる授業づくりを意識して行ったが、STEP 3の検討会では、教科の「見方・考え方」を話題にすることが少なかった。各学部で、取り上げた教科は違っていたものの授業検討する教科の「見方・考え方」については研修会等で押さえておくことが不可欠であったのかもしれない。

##### ③授業研究会における授業の見取りの焦点化

- ・今年度は、「主体的な学び」、「対話的な学び」「深い学び」の3つの視点に分け、生徒の様子や教師の手立て、支援について見取るようにした。提示授業では3つの視点の全てを盛り込むところは難しく、単元ごとに「主体的な学び」、「対話的な学び」「深い学び」の中でねらう点を明確にさせた上で、授業を見取るようにすることが望ましかった。

#### 🔑 キーワード

- ・評価規準の明確化・共通理解
- ・教科の「見方・考え方」
- ・授業の見取りの焦点化

4 資料

(1)「単元（題材）構想シート」～「学習者・授業者の視点表（昨年度作成）」含む

Ⅱ類型：単元（題材）構想シート～社会科

単元（題材）名 生活のさまり～みんなのためにごみをわけ隊～

<p><b>児童生徒の実態</b></p> <p>2年生1名、3年生3名の計4名で構成。3名は簡単な指示や日常会話が分かり、言葉でのやり取りができる。1名は、主に表情や体の動きで意思を伝える。4名とも初めての活動には慎重だが、物事への興味・関心は高い。ごみの分別は、場面やごみ箱が通常と違うなどの変化があると、自分で判断することは難しい。昨年度、ごみ処理場を見学し、ごみについての関心をもち始めている。</p>	<p><b>単元（題材）の目標 【知】【思】【学】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「家庭ごみ」と「資源ごみ（ペットボトル）」のごみの種類が分かる。<b>【知】</b></li> <li>・ごみの種類に合わせて、ごみを分ける。<b>【思】</b></li> <li>・自分から進んでごみを分けて、きれいに生活しようとする気持ちをもつ。<b>【学】</b></li> </ul>	<p><b>単元（題材）について ～やりたい活動内容～</b></p> <p>ごみ捨ては、学校生活だけでなく社会生活全般に行う行動である。家庭生活で使用する、家庭ごみや資源ごみの袋があることが分かり、袋に合うごみを自分で判断できるようになってほしいと考えた。ごみを正しく捨てることは、周りの人にも喜ばれ、自信にもつながるだろう。気付いたごみを捨てるようとする姿が見られるようになってほしい。</p>
---	--	---

指導内容 単元（題材）計画

学習内容	目標	主体的な学び	対話的な学び	深い学び
6/25、26 ・ごみを分けてほしいという依頼を受ける。 ・ごみ袋は、種類があることを知る。	・ごみを「家庭ごみ」と「資源ごみ」に分ける学習をすることが分かる。 ・ごみ袋の違いが分かる。 ・「家庭(燃える)ごみ」、「資源ごみ」の袋の名前を知る。	・これから始まる学習内容が分かり、やってみようという意欲をもつ。(主) ・具体物を見たり触ったりして、これからの学習への期待感をもつ。(主)		
7/2、3、11 ・「家庭ごみ」と「資源ごみ」のごみ袋に分けて入れる。	・手にしたごみを「家庭ごみ」と「資源ごみ」に分ける。(2、11) ・ゴミ捨て場所を見て、地域の中にゴミを捨てる場所があることを知る。(3)	・友達のごみを分ける様子を見て、「いいです」「それは違うよ」などと認めたり、教えたりする。(対) ・手にしたごみを「これでいいですか?」などと友達に質問をしようとする。(対)		
7/16、17 ・ごみを分けたことを報告し、二つのごみ袋を手渡す。	・頼まれたごみを「家庭(燃える)ごみ」と「資源ごみ」に分けたことを報告する。 ・自分でごみがあることが気付いたときにゴミを拾ってごみ箱に進んで捨てるようにする。	・「燃えるごみです」「資源ごみ（ペットボトル）です」と話したり、相手を見てから渡したりする。(対) ・落ちているごみを見つけたり、ごみ箱が複数あったりする場合にどうするか考えて、行動する。(深)		

☆☆社会科の見方・考え方☆☆

【P280：社会的な見方・考え方】 社会的現象の意味や意義、特色や相互の関連を考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする際の「視点や方法（考え方）」であると考えられる。「社会的な見方・考え方を働かせ」ることは、視点や方法（考え方）を用いて、調べ、考え、表現して、理解したり、学んだことを社会生活に生かそうとしたりすることなど。

見方	ア 社会参加と決まり・集団生活・社会生活 考え方・関連付ける・比較する・総合する イ 公共施設と制度・決まり・役割(社会参加) ウ 地域の安全・役割・働き エ 産業と生活・関係機関・協力・地域の人々 オ 我が国の地理や歴史・役割(生産・運輸・販売・消費) カ 外国の様子・消費者	考え方	○ 関連付ける ○ 比較する ○ 総合する
----	---	-----	-----------------------------

Ⅱ類型：単元（題材）構想シート～社会科

	授業改善に向けた「学習者」の視点	授業改善に向けた「授業者」の視点
主体的な学び	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験的な活動をする</li> <li>・学習のつながりが感じられる体験をする</li> <li>・好きな物を伝える、表現する</li> <li>・五感を使う</li> <li>・学習の見通しをもつ</li> <li>・前時の学習を基にした本時への期待感をもつ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒への問い掛け</li> <li>・具体物や半具体物、写真の提示</li> <li>・前時の振り返りの場の設定</li> <li>・生徒の興味関心からの単元（題材）設定</li> <li>・楽しく学習できる雰囲気作り</li> <li>・教材の提示の仕方の工夫</li> <li>・知識を定着させる</li> </ul>
対話的な学び	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の意見を相手に伝える、聞く</li> <li>・話し合いの仕方の工夫</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実態に応じた話し合いのグループの設定</li> <li>・話し合いの内容をクイズ形式にするなどの工夫</li> <li>・生徒からの問いへの返し方の工夫</li> <li>・話し合いでの教師の介入の仕方</li> </ul>
深い学び	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習したことを日常生活でも活かす、繰り返す</li> <li>・身の回りのことに関心をもつ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活に身近な題材の設定</li> <li>・まとめの時間の確保</li> <li>・学びの般化</li> <li>・ゲストティーチャーの活用</li> <li>・教科横断的な学びの設定</li> <li>・単元のゴールの明確化</li> <li>・単元目標と本時の目標の整合性を図る</li> <li>・比較対象を明確にする</li> <li>・学習を積み重ねる</li> <li>・1時間の構成を工夫する</li> </ul>

## (2) 単元（題材）評価シート

Ⅱ 類型：単元（題材）評価シート～生活科

単元（題材）名 私たちのまわりの人たち ～「〇〇のプロ」を見つけよう～

児童生徒の実態	単元（題材）の目標 【知】【思】【学】	単元（題材）について ～やりたい活動内容～
<ul style="list-style-type: none"> <li>人と関わるのが好きだが、緊張したり適切な関わり方が分からなかったりする。</li> <li>「友達」が好き。自信がない活動には消極的。</li> <li>見たいものがはっきりしている。</li> <li>知らないことの原因を知りたい気持ちがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の周りに様々な仕事をしている人がいることに気付く。</li> <li>自分の周りにいる人と自分の生活の結びつきに気付き、言葉で表したり、カードを分類したりする。</li> <li>自分の周りにいる人たちや仕事の内容に興味・関心をもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校探検「まわりのプロ」探し</li> <li>「まわりのプロ」にインタビュー</li> <li>「プロカード」集め</li> </ul>

指導内容 単元（題材）の評価 ～単元終了時～

単元（題材）の評価 児童の変容 →授業者：記述	<ul style="list-style-type: none"> <li>「プロカード」と連射した形で取書を集める。（授業改善）</li> <li>音楽の時間にカードを活用して「うたのプロ」を指したことで、自分たちが見つけたという自信と基盤にいる人に依頼する良さを感ずることができた。</li> <li>「プロ探し」を繰り返すことで、「体育のプロは〇〇先生かも」など、児童の気付きにつながった。</li> <li>校内でプロを見つけると「見つけた！」と目を見開いたり、挨拶したりする姿が見られた。</li> <li>「次は何のプロ？」など、次時の学習に期待感をもったり、友達や先生の得意なことに関付き「プロ」と表現したりする様子が見られるようになった。</li> </ul>
-------------------------------	---



日常生活と関連付けて ～教科で学んだことを日常生活で生かす姿～

期待する姿 （こんな姿が見られるといいな）	児童の変容 ～エピソード記録～	
	10月末	12月末
<ul style="list-style-type: none"> <li>自分から部下ですれ違う数人に挨拶する姿</li> <li>自分の身の回りの先生や友達に興味関心をもつ姿</li> <li>自分のよさや得意について（後期の生活科で取り扱う内容）考える姿</li> </ul>		

## (3) その他：授業づくりのSTEPとチーム編成等（I期）

STEP	時期	内容	担当者	PDCA
STEP1	単元が始まる 2週間前	授業についての話し合いと単元（題材）構想シートの作成 →単元目標・概要・指導内容の話し合い	授業者 類型チーム 研究部	P
STEP2	単元が始まる 1週間前	指導案検討会 ★授業の大枠を決定	授業者 類型チーム 教育専門監 研究部	P
STEP3	6/18	授業検討会 単元（題材）構想シートを基に 「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の3つの視点で話し合い	グループ全体	P
STEP4	7月中旬	授業研究会 生徒の様子「事実」とそれに対する参観教師の「解釈」による授業分析	グループ全体	D・C
STEP5	8/22	事例報告 単元の評価と児童生徒の変容・学習生活全般での般化場面	グループ全体	C・A

## Ⅲ類型グループ（自立活動を主とした教育課程）

研究対象教科：国語科

### 1 研究経過

	実施日		項目	主な内容
1	5/28 (火)	I 期	グループ研究会①	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度のグループ研について</li> <li>→研究計画と研究（授業づくり）の流れ（I期→II期）、各種資料等の確認</li> <li>・「単元（題材）構想シート」を用いた検討会（中学部、高等部）</li> <li>・「単元（題材）構想シート」を用いた検討会日時の決定（小学部）</li> </ul>
2	6/5 (水)		Ⅲ類型：研修会	<ul style="list-style-type: none"> <li>「国語科『言葉による見方・考え方を働かせる』とは？」</li> <li>・国語科の授業づくりに向けたアドバイス</li> </ul>
3	6/17 (月) 6/18 (火)		グループ研究会② 授業提示 授業研究会	<b>中学部2組 「もりのなか」</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の姿の見取り（主・対・深の視点）とその手立ての評価→改善、発展案の提案</li> </ul>
4	6/24 (月)		グループ研究会③ 授業提示 授業研究会	<b>高等部2組 「わらしべちょうじゃ」</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の姿の見取り（主・対・深の視点）とその手立ての評価→改善、発展案の提案</li> </ul>
5	～7/2 (火)		授業提示（7/2） （指導主事計画訪問）	<ul style="list-style-type: none"> <li>※「単元（題材）構想シート」を用いた検討会（小学部：各チームによる日時設定）</li> <li>・授業実践、指導助言（7/2）</li> </ul>
6	7/16 (水)		グループ研究会④	<ul style="list-style-type: none"> <li>・I期の評価</li> <li>→I期取組の成果と課題の話合い（各学習グループ）</li> <li>→評価シートの記入（題材の評価と児童生徒のエピソード記録）</li> </ul>
7	8/22 (木)		グループ研究会⑤	<ul style="list-style-type: none"> <li>・I期の評価のまとめ</li> <li>→各学習グループの成果と課題の共有</li> <li>・II期の授業実践に向けて</li> <li>→「単元（題材）構想シート（改）」様式の提示</li> <li>→授業実践、評価、改善までの流れの確認（検討会日時、提示授業実践日の決定）</li> </ul>
8	9/10 (火)	II 期	グループ研究会⑥ 指導案検討会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「単元（題材）構想シート」を用いた検討会（8/20）</li> <li>小学部5年2組 「ブレーメンのおんがくたい」</li> <li>・学習指導案の共有、本時の学習過程についての検討、アドバイス</li> <li>→授業者説明を受け、各学習グループで本時の学習過程について意見交換、アイデア等の提案</li> </ul>
9	10/9 (水)		グループ研究会⑦ 授業提示 授業研究会	<b>小学部5年2組 「ブレーメンのおんがくたい」</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の姿の見取り（主・対・深の視点）とその手立ての評価→改善、発展案の提案</li> </ul>
10	11/18 (月)		グループ研究会⑧	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「単元（題材）構想シート」を用いた検討会</li> <li>・授業実践、指導助言 （各チームによる日時設定、小学部5年2組を除く）</li> <li>・II期の取組の確認</li> <li>→各学習グループの進捗状況確認（検討会、授業実践、評価）</li> </ul>
11	12/17 (火)	グループ研究会⑨	<ul style="list-style-type: none"> <li>・II期の評価</li> <li>→単元（題材）の評価、児童生徒の変容について共有</li> <li>→II期取組の成果と課題の話合い（各学習グループ）</li> <li>→評価シートの記入（題材の評価と児童生徒のエピソード記録）</li> </ul>	
12	1/24 (金)	グループ研究会⑩	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度のグループ研のまとめ</li> <li>→取組の振り返り</li> </ul>	
13	2/6 (木)	グループ研究会⑪	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度に向けて</li> <li>→今年度の成果と課題の確認、意見収集</li> </ul>	

## 2 研究実践

### (1) チームとしての取組

#### 【授業づくり、授業実践、授業改善】(Ⅲ類型全学習グループ)

##### ①「単元(題材)構想シート(P38)」を用いた検討会

- メンバー(チーム1): 授業者、+αメンバー(教育専門監、学部主事、国語専科、類型チーフ、研究部から3名程度)
- 授業者が作成した「単元(題材)構想シート」を基に、チーム1メンバーで意見交換をしながら単元(題材)構想をした。意見を「主体的」「対話的」「深い学び」の視点ごとにまとめたり、精選したりしながら単元(題材)の構想やイメージを固めた。参考資料として昨年度作成した「視点表(P39、40)」を用いた。

##### ②授業実践

- Ⅰ期:
  - ・ 中学部2組～授業提示・ミニ授業研究会(授業者、小学部職員一部メンバー)  
指導助言: 藤原恵理子教育専門監
  - ・ 高等部2組～授業提示・ミニ授業研究会(授業者、小学部職員一部メンバー)  
指導助言: 高橋省子副校長
  - ・ 小学部全学習グループ～指導主事計画訪問にて授業提示、指導助言による評価
- Ⅱ期:
  - ・ 小学部5年2組「ブレーメンのおんがくたい」～授業提示・授業研究会  
指導助言: 秋田大学大学院教育学研究科 教授 藤井慶博 氏
  - ・ 上記他小、中、高等部全学習グループ～授業提示、授業動画視聴による評価

##### ③授業改善

- Ⅰ期:
  - ・ 中、高等部～ミニ授業研究会での指導助言及び改善、発展案を基に授業改善へ
  - ・ 小学部～指導主事計画訪問での指導助言を受け授業実践へ
- Ⅱ期:
  - ・ 小学部5年2組～授業研究会での指導助言及び改善、発展案を基に授業改善へ
  - ・ 上記他小、中、高等部学習グループ～授業提示、授業動画を視聴、授業改善へ

#### 【指導案検討、授業研究会～Ⅱ期授業研究会に向けて～】Ⅲ類型全職員(チーム2)

##### ①指導案検討会

- 「単元(題材)構想シート」を用いた検討会を基に作成した学習指導案を共有(授業者説明)した。授業者からの検討事案(本時の学習活動)を小グループで意見交換し、アイデア等を提案した。

##### ②授業研究会

- 事前資料や情報として、提示授業の前時の授業動画の共有、『単元(題材)における目標達成の具体的な姿』一覧を提示した。授業の見取りとして、「児童生徒の見られた姿」と「その手立て」を相関させた付箋紙への記入の仕方を提示した。協議会の始めに「主体的」「対話的」「深い学び」の視点で上記付箋紙を分類し、協議題を基に今後の授業づくりに向けた改善、発展案を提案した。

#### 【単元(題材)の評価と児童生徒の変容】

- 学習グループごとに「評価シート(P38)」を記入した。単元(題材)終了後に単元(題材)の目標の達成度を評価し、その評価の理由となる児童生徒のエピソードを記録した。さらに年間を通じた児童生徒の変容の見取りとして、国語科以外の場面で、国語科で育った資質・能力が見られた場面のエピソードを記録した。

#### 【授業づくりに関する研修会】

テーマ:「国語科『言葉による見方・考え方を働かせる』とは？」 講師:教育専門監 藤原恵理子

- ・ 深い学びの鍵は「教科の見方・考え方」国語科における『言葉による見方・考え方』とは』鹿児島大学教育学部附属特別支援学校の研究成果の資料を参考に解説
- ・ 「言葉による見方・考え方を働かせるとは」～授業づくりのプロセス「おおきなかぶ」を例に～授業を考えていくプロセス、学びのアプローチを「おおきなかぶ」を題材例に提案
- ・ 『言葉』は子どもの学習活動を支える役割、学習の基盤  
学習指導要領国語科小学部1段階の目標と内容より、言語環境を整えることの大切さの確認

(2) 授業実践

【実践1】

中学部1・2・3学年2組 国語科 「もりのなか」

単元について

○単元(題材)目標

- ・登場人物に関連する事柄に触れ、「散歩」「一緒に行こう」の意味が分かる。[知]
  - ・「散歩に一緒に行こう」「うん、行こう」のやり取りの場面を体験し、誘い掛けに気付いて相手に注目したり、表情や発声、身振りで応じたりする。[思]
  - ・教師の誘い掛けに応じて、「うん、行こう」の言葉を表現しようとする。[学]
- 本題材は、繰り返しのある展開で登場人物が増えていくところが分かりやすく、集団で学ぶことで物語の楽しさが感じられる。学校生活でも使う誘い掛けに応じる言葉(「一緒に行こう」「うん、行こう」)を選び、やり取りを楽しめるようにした。

生徒の目指す姿

- ・物語を楽しみながら、言葉掛けを受け止め、自分の表現で応えることを目指している。

単元構想  
指導案検討会より

- ・登場する動物のコーナーを設けて教師とじっくり役を選ぶ時間があるとよい。
- ・散歩がわくわくするように、森のカーテンの素材を変えて層にしてはどうか。

児童生徒の学びの姿

主体的な学び

- ・毎回同じパターンでの展開で見通しをもって参加していた。

対話的な学び

- ・活動を期待するように、顔を上げて教師や友達の動きを目で追っていた。

深い学び

- ・森のカーテンをくぐり、散歩に「行く」という言葉と動作が結び付きやすい。



授業研究会から(課題、改善点) 指導助言: 藤原恵理子教育専門

○見方・考え方を十分に働かせ、言葉の理解や言葉を聞いて対象をイメージすることに取り組んでいた。

△即時評価は有効だが、その都度評価しているとせっかくのストーリーの流れが途切れてしまう場合も考えられるため、バランスも考慮しながら検討してほしい。

題材を通しての成果と課題

- ・他の教科や移動の際に「～に一緒に行こう」を意図的に使うことで、普段使いの言葉になりつつある。
- ・生徒に対する評価について、生徒の表現が教師側に伝わったことが分かるように、すぐに一人一人に合わせたリアクションをすることと、目に見える評価として赤い腕輪を渡すようにした。

## 単元について

## ○単元（題材）目標

- ・教師と一緒に「どうぞ」「ありがとう」の言葉のやりとりを通して、楽しみながら声を出したり動作化したりする。☑
- ・教師の話や読み聞かせに応じ、音声を模倣したり、表情や身振りなどで表現したりする。身近な人からの話し掛けに注目したり、応じて応えたりする。☑
- ・言葉のもつ良さを感じるとともに、読み聞かせに親しみ、言葉でのやり取りを聞いたり伝えたりしようとする態度を養う。☑

- 本題材は、物を交換する場面が繰り返され、やり取りに合わせて「どうぞ」「ありがとう」といったフレーズに繰り返し触れ、個々の表現を引き出しながら、言葉のリズムを楽しむことができる。交換する物を身近な物に替えるなど、日常生活の中で使う言葉に触れながら学習活動を発展させていくことができる。国語以外の場面でも「どうぞ」「ありがとう」の言葉を使った身近な物での交換活動を繰り返し、相手とのやり取りを通して個々の表現が生まれることを期待したい。

## 生徒の目指す姿

- ・物語に出てくる、わら、みかん、反物など、実物を用いて友達とやり取りし、併せて「どうぞ」「ありがとう」のフレーズに繰り返し触れ、言葉のリズムを楽しんだり、発声、ハンドサイン、目や手の動き等で表したりすることを目指している。

単元構想  
指導案検討会より

- ・視覚的サポートの強化
- ・多様な感覚を活用
- ・体調に応じた活動の柔軟性
- ・物語の流れの視覚化
- ・具体物の使用
- ・コミュニケーションの強化
- ・学習成果の記録
- ・振り返りの充実
- ・次の学習への期待感



「どうぞ」「ありがとう」のやりとり

## 児童生徒の学びの姿

## 主体的な学び

- ・毎時間の繰り返して言葉やリズムを覚えて、発声、手や体を揺らす、じっと見る等の姿が見られた。

## 対話的な学び

- ・授業の進め方において、決まった音やフレーズを取り入れることで生徒が見通しをもち、安心して教師とやり取りしていた。

## 深い学び

- ・日常生活でよく目にする具体物を取り上げ、生活に結び付く言葉や五感に働き掛ける活動があった。

## 授業研究会から（課題、改善点） 指導助言：高橋省子副校長

- 映像を見る、実物を見る、相手を見る、また、具体物を触る、嗅ぐなど五感をいろいろ感じさせながら、言葉と実物、動作を結び付けようとしていた。
- めあてと目指す姿がしっかり示され、どのような姿が出ると目標が達成されたのかが分かりやすかった。

## 題材を通しての成果と課題

- ・「どうぞ」「ありがとう」のやり取り場面から、日常生活での習得水準の差に応じた個々の表現が生まれた。
- ・ペアリングの工夫、対話を重視した活動をする際の配置の見直しについて検討し、次の題材につなげる。

単元について

○単元（題材）目標

- ・登場する動物の鳴き声の鳴きまね遊びや、「いっしょにいこう!」「おー!」の言葉のやり取りを楽しみ、表情や動作で表す。☑
- ・教師の話や読み聞かせに応じて動物の鳴き声を表現しようとしたり、「いっしょにいこう!」「おー!」のやり取りで、自分の表現方法で応答したりする。☑
- ・「おー!」の返事を相手に伝えようと自分なりの表現方法（楽器やアプリ（ドロップタップ、iOAK）、表情など）で表現したり、泥棒を追い出すために大きな声や大きな音を出そうと意識をして、発声したり動作や表情で表したりする。☑

○本題材は、動物たちが仲間になって一緒に旅をするという繰り返しのストーリーが分かりやすく、身近な動物や「ヒヒーン」「ワンワン」などの擬声語を取り入れることで物語に興味もてる。「いっしょにいこう!」「おー!」のやり取りや、全員が動物の声を出す場面で楽器やタブレット端末のアプリを使用することで、意思を相手に伝えたり表現したりすることの素地につながると考える。

児童の目指す姿

- ・動物の鳴き声の鳴きまね遊びや「いっしょにいこう」「おー」の言葉のやり取りを楽しみながら、自分の表現方法（楽器やアプリ、iOAK、表情など）で応えたり、泥棒を追い出す場面で大きな声や音を出そうと意識して表したりすることを目指している。

「単元（題材）構想シート」を用いた検討会より

- ・やり取りをする際の表出や表現の仕方が小さい児童の表現方法の一つに、楽器を入れてもいいのではないかと。題材との関連性をもつことができる。
- ・児童数と登場する動物の数を同じにすると、一人一人がやりたい動物の役になりきってお話遊びをすることができる。

児童生徒の学びの姿

主体的な学び

- ・ペーパーサートに注目したり、笑顔が見られたりした。
- ・表現方法をどうするか教師の問い掛けに、個々の表現方法で応えていた。

対話的な学び

- ・表現方法によるグルーピングで、複数の教師とやり取りの練習ができた。
- ・ロバの誘い掛け（対面、楽器）や、友達の様子に注目する姿が見られた。

深い学び

- ・「いっしょにいこう」に応えた後、移動シトunnelをくぐることで、言葉と動作が結び付きやすかった。
- ・ロバや楽しい雰囲気トンネルが伝えたい気持ちを引き出していた。



題材を通しての成果と課題

- ・国語科の授業の中で「いっしょにいこう」と誘い掛けると、トンネルの方を見る様子が見られた児童があり、見通しをもつことにつながっている。
- ・教師が担っていたロバ役を児童に変えて学習活動を行ったが、ロバ役の児童の誘い掛け（「いっしょにいこう」）にも応える様子が見られた児童があり、ロバ役の人は変わってもロバは同じということの理解、構成概念の広がりにつながってきている。
- ・国語科の学習場面だけでなく、生活の中で「いっしょに行こう」という言葉を使っていくことで、学びを生活場面へと広げていきたい。

授業研究会から（課題、改善点）  
指導助言：秋田大学大学院教育学研究科  
藤井慶博教授

- ・児童の学習課題を明確化し、教師の意図や手立てが結び付いた教材選定や教材研究がとても重要である。
- ・「いっしょにいこう」という言葉の汎用性の高さを生かしていくこと、学習活動に変化を付け、次の学びや生活へどう広げていくのかという視点で授業づくりをしていくことが必要である。
- 児童の表出を言語化し、価値付けするフィードバック、即時評価が有効だった。
- アクティブラーニングにつながる「選ぶ」活動（自立活動を参考にした選択肢）が重要である。
- △教師の働き掛け（言葉の精選）や児童の反応を引き出す時間の確保がもっとあってもよい。

評価シート（エピソード記録）

【評価シート】 小学部 5年 2組 「ブレーメンのおんがくたい」  
1 題材の目標

評価	目標	
○	・動物の鳴きまね遊びや誘い掛けの言葉等のやり取りを通して、言葉のもつ楽しさに親しむ。 →児童は、鳴きまね遊びは楽しめていた。誘い掛けの言葉のやり取り自体を楽しんでいたかどうかの評価が難しい。	知
○	・教師の話や読み聞かせに応じて動物の鳴き声を表現しようとしたり、仲間を旅に誘うやり取りの中で自分の表現方法で応答しようとする。 →児童は、「教師の話や読み聞かせに応じて動物の鳴き声を表現しようとする」の部分は難しかった。	思
○	・仲間を誘う場面や泥棒を驚かす場面等で、物語の展開ややり取りする楽しさを感じて、表情や動作で気持ちを表す。 →「泥棒を驚かす場面」の理解が児童は難しかった。「泥棒」は悪い人、怖い人、追い払う人 という認識が難しかった。「泥棒を驚かして追い払う」という活動は、無理にストーリーに則って取り入れなくても良かったかもしれない・・・。	学

《評価》 ○：体調のよいとき、覚醒しているときは、90～100% △：体調のよいとき、覚醒しているときも難しい 30%以下 ○：○と△の間

その評価の理由のエピソード ～児童生徒にこのような様子が見られた～  
※事実のみを記載する 単元（題材）終了時 → 国語科以外の場面で、国語で育った資質・能力が見られた場面 ※年度末（12月くらい）まで

児童名	エピソード ※単元（題材）終了時	国語科以外の場面で
A	姿：ロバに返事をする場面で、スイッチを手元に近付けると、スイッチを押したけれど・・・ →？それだけでは、スイッチを押す＝返事をする ということが分かっているという評価はできない。 姿：ブレーメンのペープサートでのお話を聞く場面では、教師の「コケッコー！」の擬音語を聞いて笑顔になる。→○ 姿：動物の役を決める場面では、教師の「コケッコー！」と、「ニャーニャー」の擬音語を聞くと笑顔になる。→○	★朝の会の元気調べや自立活動で・・・ →スイッチやタブレット使って返事をする活動をやってみる！ 「スイッチやタブレットを押す、タッチする＝返事となる」という認識を育てよう！
B	姿：やり取りの展開が分かっている、トンネルをくぐって移動後は鈴を鳴らそうとした。 姿：ロバ役を担当し、友達に「一緒に行こう！」と誘う場面で、友達との距離が近づいてくると、自分から手を友達に伸ばしてタッチしようとした！ →◎イヌ役の友達を誘うときは、お互い手を挙げるタイミングがなかなか合わないながらも、タッチできた。本人は、満足そうな笑みを浮かべていた。	★朝の会の元気調べで・・・（日直のとき） →友達との距離が近くなると、自分から友達へ手を伸ばした！
C	姿：ロバ役が教師から友達に変更、それでもロバ役に注目！ロバ役の友達が手を近づいて手を伸ばすと笑顔で注目。 →◎やり取りする人物が変わっても、やる事が同じであることが分かっている！	★学年活動のオリエンテーリングで・・・ 「Cさん、一緒に行くよー」と友達さんに声を掛けられると、愛生さんに視線を向け、友達さんの方に歩き出す！ →○「いっしょに○○しよう」という言葉を何となく理解しているのでは？
D	姿：ロバ役が教師から友達に変更、それでも顔を上げてロバ役の友達に注目し、相手が伸ばした手に触れようとする！ →◎やり取りする人物が変わっても、やる事が同じであることが分かっている！ 姿：動物の役を決める場面では、教師の「ワンワン」の擬音語を聞くと、唯一顔を上げた→○	★朝の会の元気調べで →友達が近づいて調べにくくと視線を向けたり、手を伸ばそうとしたり、テーブルを叩いて返事をした！
E	姿：唯一、「泥棒」というキーワードや、泥棒のペープサート、泥棒登場BGMを聞くと表情がこわばる。（以前、何か絵本などで「泥棒」＝怖い人、悪い人という印象をもっているのかもしれない）→それ自体は○。 姿：動物の役を決める場面では、教師の「チュチュー」や「コケッコー！」の擬音語を聞いて表情を変えた。→○	★学年活動のオリエンテーリングで・・・ 「Eさん、一緒に開けよう」と友達さんに声を掛けられると、友達さんに視線を向け、嬉しそうな表情を浮かべる。

### 3 まとめ

#### (1) 成果

##### ・チーム編成と「単元（題材）構想シート」を用いた検討会

チーム1メンバーでの「単元（題材）構想シート」を用いた検討会（授業づくり）は、学部を越えて授業者以外の職員が入ったことで、各専門分野を切り口とした提案、具体的な指導例、学部間のつながり等の様々な視点からの助言を得られた。新鮮で有益なアイデアにより、授業者の迷いや悩みの解消につながり、授業イメージを固めていくことができた。また、小学部、中学部、高等部の一貫性の意識につながった。検討会を受け、授業者間で授業に関する情報交換をする機会が増え、より授業の方向性を共有することにつながった。

「単元（題材）構想シート」は、授業者（T1）が授業のベースとなる考えを整理しつつ、授業を構想する話し合いのツールとして有効だった。Ⅰ期からⅡ期での様式変更や、Ⅰ期の経験を踏まえたⅡ期での検討会実施（役割分担、視点の焦点化）により、活発な意見交換につながった。

##### ・授業実践と授業改善

Ⅰ期、Ⅱ期ともに、Ⅲ類型全学習グループが授業づくりの一連の過程を踏み、「単元（題材）構想シート」を用いて授業づくりに参画し、授業実践した。Ⅰ期での課題を受け、Ⅱ期では、授業研究会の他、全学習グループが授業動画を撮影し、授業者へアドバイス等をフィードバックできる環境を設定した。

授業研究会に向けては、提示授業の前時の授業動画を配信し、事前に対象児童生徒の様子を知り、当日の授業参観や協議に臨めるようにした。また、Ⅲ類型の児童生徒の微細な反応や表出を見逃さず、目標達成の姿を見取る指標となるよう、個々の『単元（題材）における目標達成の具体的な姿』一覧を提示した。それにより、授業者、参観者で評価基準を共有でき、より協議題に沿った意見交換の基、次の授業づくりにつながる改善、発展案が出された。

##### ・国語科の授業づくりと児童生徒の変容

年度当初の教育専門監による研修会（「国語科『言葉による見方・考え方を働かせる』とは？」）を通じて、単元（題材）で取り上げる「言葉」について吟味し、検討会の中で多く話題とされた。全学習グループがⅠ、Ⅱ期に「単元（題材）構想シート」を用いて検討会をし、授業づくりをしたことで、Ⅰ期からⅡ期での国語科の教科の目標や内容を踏まえた授業づくりへの意識を高めることにつながった。国語科で取り上げた「言葉」を日常生活場面で意識的に使用したり、日常生活の中での言語環境を大切にしたりする意識の高まりにより、児童生徒の国語科以外の場面での資質・能力の向上につながるエピソードが、各学習グループの「評価シート」に挙げられた。

#### (2) 課題

##### ・ツールの活用と情報の精選

各ツールを使用しながら一連の授業づくり、授業改善に取り組んできた。それぞれの有効性を実感する反面、活用度や情報量等での課題があった。各ツールの課題は以下の通りである。

- ・「単元（題材）構想シート」：検討会で得た様々な意見等を精選し授業づくりへ反映させること
- ・「視点表」：幅広く網羅されている主体的・対話的で深い学びの視点（項目）から選択すること
- ・「評価シート」：単元（題材）目標の三段階（◎○△）評価、国語科以外の場面の評価の難しさ

##### ・チームで取り組む授業づくりに向けて

チーム1メンバーでの検討会の有効性【(1) 成果より】を実感できた部分はあるが、チームメンバー構成、効率的な検討会の持ち方、授業改善につながる効果的な開催が課題であった。

#### (3) 次年度に向けて

チームで取り組む授業づくり、授業改善を通し、各学習グループから児童生徒の単元（題材）の目標達成の姿（エピソード）が挙げられたことは、児童生徒の資質・能力を育む実践の一端につながるものだった。チームでの取組で実感したメリットを精選、引き継ぎつつ、課題や気付きに改善を加え、よりよい授業づくり、授業改善につなげていきたい。

- ・活用ツール（各資料）の選択、改善、活用法の工夫
- ・チームでの取組（授業改善へのフィードバック、相談しやすい環境づくり）
- ・児童生徒の見取りの視点、評価基準となる指標の整備

4 資料

(1) 「単元(題材)構想シート」〈資料1〉

【川類単元(題材)構想シート】 単元(題材)名「 _____ 」					
児童生徒の実態・こゝな学習活動・経験をしてきた (箇条書きで)	単元(題材)の目標				
知 思 学					
単元(題材)について(学習活動) こゝな活動をしたい!!					
<b>指導内容 単元(題材)計画</b>					
学習内容	目標	時間	主体的な学び	対話的な学び	深い学び
(時数)	(時数)	(時数)	※手立てに対し、関連する視点表の番号を記載する		
(時数)	(時数)	(時数)			
(時数)	(時数)	(時数)			

●参考資料として、鹿児島大学教育学部附属特別支援学校の研究成果【国語科における『「言葉による見方・考え方」とは』を添付した。

●『視点表 (R 6 作成) 〈資料3〉』の関連する項目番号を記載するようにした。

●Ⅰ期→Ⅱ期で様式を変更し、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を区切る枠線を削除し、記入や意見交換に自由度をもたせた。

(2) 「評価シート」〈資料2〉

【評価シート】 学部 年 組		
1 単元(題材)の目標		
評価	目 標	
•	知	
•	思	
•	学	
↓ 【評価】 ○ :体調のよいとき、覚醒しているときは、90~100%    △ :体調のよいとき、覚醒しているときも難しい 30%以下    ◯ :○と△の間		
その評価の理由のエピソード ~児童生徒にこのような様子が見られた~ ※事実のみを記載する 単元(題材)終了時 記入例) 姿:◇◇(目標達成の姿)が見られた。 → ○○(姿が見られた学習場面)、□□(姿が見られたとき購じた手立て)	国語科以外の場面で、国語で育った資質・能力が見られた場面 ※年度末(12月くらい)まで 記入例) ・○○(国語科以外の場面で、◇◇(目標達成の姿)が見られた。→□□(姿が見られたとき購じた手立てがあれば)	
児童生徒名	エピソード ※単元(題材)終了時	国語科以外の場面で
姿: → 姿: →		→

(3)「視点表 (R6作成)」〈資料3〉

	キーワード	授業改善に向けた『学習者』の視点	授業改善に向けた『授業者』の視点
主体的な学び	【わかる】	① 安心すること ② 見通しをもつこと、次の活動が分かること ③ パターンを知ること ④ 感覚を活用しようとする事 ⑤ 自分から活動に取り掛かること ⑥ 取り組んだ結果が分かること ⑦ 活動の決まりが分かること	50 繰り返しの活動 51 導入における見通しのもたせ方 52 活動や目標の精選 53 聴覚的な環境を整えること 54 視覚的な環境を整えること 55 教師による演示や模範 56 既習事項の確認(掲示物) 57 安全、安心な環境の確保(姿勢づくりも含めて)
	【たのしい】	⑧ 活動そのものが楽しいこと ⑨ 楽しそうだと思うこと ⑩ 好奇心がくすぐられること ⑪ うれしいこと ⑫ ワクワクすること ⑬ ドキドキすること ⑭ 期待感をもつこと	58 興味関心に応じた活動 59 楽しめるような環境づくり、雰囲気作り 60 メリハリのある学習活動 61 効果音など音楽の工夫 62 活動順の工夫
	【チャレンジする】	⑮ ちょっとだけ頑張ること ⑯ やり直しができること	63 目標や課題の絶妙な設定 64 評価基準と評価規準の設定
	【えらぶ】	⑰ 自分で選び決めること	65 自己選択・自己決定場面
	【つたえる】	⑱ 教師に伝えようとする事(発声、表情)	66 働きかけのバリエーション 67 表出に気付き、共感的に受け止めて言葉を返す
対話的な学び	【しる】	⑲ 場を共有すること ⑳ 友達との距離が近いこと ㉑ チームやペアが分かること ㉒ 友達の姿を意識すること(注視、追視) ㉓ 友達の活動を見て知ること(KCTも含む)	68 即時評価や活動の様子の伝達(情報発信) 69 友達の活動の様子の共有や共感 70 配置の工夫(距離感) 71 発表場面の設定(全体へ伝わるように) 72 聴覚的な環境を整えること
	【かかわる】	㉔ 友達と関わること ㉕ 友達との関わりに必然性があること ㉖ 友達の活動を応援すること ㉗ 教師を介して友達とやりとりすること	73 グルーピングや必然性 74 TTの役割分担の明確化 75 小道具の活用
	【かつどうする】	㉘ 十分に活動すること(活動量) ㉙ みんなで一緒にやってみること ㉚ 自己肯定感が高まること ㉛ 一人でまたは少ない支援でできること	76 個々の活動量の確保 77 時間配分の工夫
	【あらわす】	㉜ 教師や友達に対して表出、表現すること発表する、発表を見る	78 表出に気付き、共感的に受け止めて言葉を返す 79 頑張りどころの見える化
	【やくわり】	㉝ 役割を果たすこと	80 児童生徒の役割の設定
	【ふりかえる】	㉞ 自分の活動を振り返ること(評価)	81 めあての確認や振り返りのタイミング

深い学び	【こころが うごく】	<ul style="list-style-type: none"> <li>③⑤ 快、不快を表現すること</li> <li>③⑥ 活動に満足感を得ること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>82 表出を待つこと</li> </ul>
	【わかる】	<ul style="list-style-type: none"> <li>③⑦ 実感すること</li> <li>③⑧ 気付きがあること</li> <li>③⑨ 予測すること</li> <li>④⑩ 自分の活動の様子を知ること</li> <li>④⑪ 活動の結果が分かること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>83 評価や称賛のタイミング</li> <li>84 繰り返しの活動</li> <li>85 ICT の活用</li> <li>86 目標やねらう姿の共有</li> </ul>
	【かんがえる】	<ul style="list-style-type: none"> <li>④⑫ 友達の様子を知ること、まねようとする</li> <li>④⑬ 目的をもって活動に取り組むこと</li> <li>④⑭ 学びを振り返ること</li> <li>④⑮ 自分の目標を知り、振り返ること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>87 振り返りの方法</li> <li>88 めあての設定(前時と本時のつながり)</li> </ul>
	【ひろがる】	<ul style="list-style-type: none"> <li>④⑯ 経験を重ねて深めていくこと</li> <li>④⑰ 日常生活に生かすこと</li> <li>④⑱ できたことが広がること</li> <li>④⑲ じっくり取り組むこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>89 支援の工夫や変化</li> <li>90 支援量の調整</li> <li>91 評価も含めた記録の在り方</li> </ul>

## 訪問部グループ（自立活動を主とした教育課程）

研究対象教科：国語科

### 1 研究経過

	実施日	項目	主な内容
1	5 / 28 (火)	グループ研究会① ミニ研修 I	I 期 ・昨年度の成果と課題から、改良した「単元（題材）構想シート」を提案。主対深の手立てを言語化、本校訪問部国語科の見方考え方を明示、共有。また、チームで作成していく手順を共有。 ・「単元（題材）構想シート」を使った演習（中学部3年） ・事例対象児を1名に絞り、年間を通じてチームで授業研究を通して育成を図ることを共通理解。 ・対象児（小学部1年）の「単元（題材）構想シート」の作成 ・対象児の「自立活動シート」を基にした実態の共有 ・指導案検討会 小学部1年4組 国語科 「おおきなかぶ」 ＊録画した映像を夏季休業中に見合う。 ・国語科で扱った題材（絵本）について、ポイントを絞って紹介し合い、本校訪問部国語科の言葉による見方・考え方を再共有。 ・協議1～本時における「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」についての意見交換を基に、協議2～国語科の資質・能力を育む学習活動や具体的な手立ての工夫に焦点を当てて協議。次時に向けて国語科の見方考え方を働かせるための支援の明確化。 ・I期の評価について、対象児の表出の変容や次題材の構想を協議。
2	6 / 18 (火)	グループ研究会②	
3	7 / 4 (木)	グループ研究会③	
4	7 / 19 (金)	授業提示	
5	8 / 22 (木)	グループ研究会④ ミニ研修 II 「絵本を語る会」	
6	8 / 27 (火)	グループ研究会⑤ 授業研究会	
7	9 / 10 (火)	グループ研究会⑥	
8	10 / 17 (火)	グループ研究会⑦	II 期 ・II期の題材について、「単元（題材）構想シート」を基に協議。 小学部1年4組 国語科 「はらぺこあおむし」 ・数回に分けて、研究グループ全員が対象児の授業参観を実施。 ・年間を通した児童生徒の変容について、映像で振り返り、評価。 ・今年度のまとめと次年度に向けて共有。
9	10 / 29 (火) ～12 / 3 (火)	授業を見合う週間	
10	12 / 10 (火)	グループ研究会⑧	
11	2 / 13 (木)	グループ研究会⑨	

## 2 研究実践

### (1) チームとしての取組

#### 【授業づくり・授業改善】

##### ① 活用ツールの特徴

- ・「単元（題材）構想シート（資料①P47）」と「主・対・深に応じた学習者・授業者の視点表（資料②P48）」を、前年度の課題を基に見直した。「主・対・深に応じた学習者・授業者の視点表」は、学習環境の配慮事項を、「自立活動シート」を活用した実態把握の際に十分に行うこととした。「単元（題材）構想シート」は、下欄に「本校訪問部国語科の見方考え方（案）」を明示した。

##### ② 授業づくりにおけるプロセスのSTEPとその内容

- ・チームを以下の通りに構成し、複数の目から実態把握と授業改善を行った。

チーム1：授業者及び研究部

チーム2：訪問部研究グループ、教育専門監 近江 美歩

#### I 期（4月～9月）

プロセス	構成	内 容	
P	チーム1	「単元（題材）構想シート」 の作成	題材、目標、指導計画、指導内容の検討
P	チーム2		指導計画、指導内容の検討
P	チーム1	指導案検討会	学習活動、手立ての検討
	チーム2		手立ての検討
D	授業者	授業の実施 *録画	
C	チーム2	授業研究会 *録画を事前に見合い、授業研究会にて協議 指導助言：訪問部国語科における言葉による見方考え方について	
A	チーム2	単元（題材）の評価と児童の変容	

#### II 期（10月～12月）

プロセス	構成	内 容	
P	チーム1	「単元（題材）構想シート」 の作成	題材、目標、指導計画、指導内容の検討
P	チーム2		指導計画、指導内容の検討
D	授業者	授業の実施	
D	チーム2	授業を見合う会 *チーム全員が授業参観	
C	チーム2	年間を通した児童の変容の評価	
A		今後に向けて	

#### 【授業づくりに関する研修会】

##### ミニ研修「絵本を語る会」

テーマ：国語科の題材（絵本）選定

- ・訪問部生に国語科で扱った題材（絵本）について、手作りの教材を元にポイントを絞って紹介合った。\*ポイント～①対象者の学部・学年 ②学んだ言葉 ③季節 ④手立て（教材）
- ・学んだ言葉を紹介し合うことから、訪問生における国語科の言葉による見方考え方に焦点を当て再共有した。

(2) 授業実践

【実践1～I期】

小学部1年4組 国語科 みよう きこう①「おおきな かぶ」

題材について

- ・本児は身近な人との関わりに慣れ、感じた気持ちを表現することを目指している。本題材では、読み聞かせやお話遊びを通して、「うんとこしょ どっこいしょ」の言葉を意識し、かぶを抜くやり取りを楽しみながら、表情や体の動きで気持ちを表すことを目指した。

○単元の目標

- ・「うんとこしょ どっこいしょ」の言葉のリズムに触れる。[知]小1段階ア(イ)
- ・教師の話を聞いて、目を向けたり応じて声を出したりする。[思]AI
- ・読み聞かせを聞いたり、登場するかぶ等の模型に触れたりして、感じた気持ちを表情等で表す。[学]

題材構想  
指導案検討会より

- ・児童が見通しをもって学習できるように、活動や学ぶ言葉をしぼり、シンプルな題材構成にするとよい。
- ・聴覚優位の児童であるため、登場人物や言葉に沿った効果音を取り入れると良いのではないか。



児童の学びの姿

主体的な学び

- ・始めの歌や読み聞かせで期待感をもち、教師を見たり笑ったりした。

対話的な学び

- ・教師の言葉掛けや働き掛けに慣れ、笑顔や手の動きで気持ちを表した。

深い学び

- ・読み聞かせやお話遊びが進むにつれて、顔や手の動きが活発になり表情が豊かになった。

授業研究会から(課題、改善点、指導助言)

○教師は児童の気持ちを共感し、言葉掛けのタイミングがよかった。

△お話「おおきなかぶ」への興味・関心を広げるための教材の提示の仕方、素材等の工夫→ペープサートやかぶを見えやすい位置に提示する。かぶの素材を工夫し、触れる活動を加える。

(指導助言)

- ・「うんとこしょどっこいしょ」の言葉をどう伝えるかを丁寧に検討→少し力を入れて引っ張るようなイメージをどう伝えるか。そのための、教材や支援の方法を工夫する。
- ・めあての提示と振り返り→教師の言葉をよく聞き期待感をもっていた。だからこそ、めあての提示は必要。子どもが何をすればよいのか分かりやすく伝え、それをもとに振り返る。

題材を通しての成果と課題

○教師との関わりを楽しみ、言葉掛けに応じようとする芽生えが見られてきた。

○ペープサートによるお話では言葉のリズムを楽しみ、笑顔や期待する表情が増えた。

○かぶを引っ張るお話遊びでは、手を動かすとかぶが持ち上がるように教材を工夫したことで、教師の「うんとこしょどっこいしょ」の言葉を聞きながら、意欲的にひもを引っ張る手の動きが見られた。また、かぶが持ち上がり教師に褒められると満足気な表情が見られた。

●児童がせりふを表現するための工夫(児童の実態に合ったスイッチ教材の活用など)

## 小学部1学年4組 国語科 みよう きこう②「はらぺこあおむし」

### 題材について

- ・身近な人との関わりを楽しみ、感じた気持ちを表現することを目指している。本題材では、読み聞かせやお話遊びを通して、「ぺっこぺこ」の言葉を意識し、スイッチを押してセリフを楽しみながら、表情や体の動きで気持ちを表すことを目指した。

### ○単元の目標

- ・「ぺっこぺこ」の言葉のリズムに触れる。【知】小1ア(イ)
- ・教師の話聞いて注目したり、応じて応えたりする。【思】小1Aイ
- ・登場するあおむしや果物の模型に触れたり、読み聞かせを聞いたりして感じた気持ちを表情で表す。【学】

### 単元(題材)構想 シートの作成

- ・目標の変更(やりとりを重視)
- ・めあての提示と振り返りの充実
- ・五感に働きかける教材
- ・「ぺっこぺこ」の言葉に焦点化
- ・「ぺっこぺこ」をスイッチ化
- ・お話遊びのストーリー性  
(あおむしがちょうちょになる展開)
- ・テーマソングの固定化



### 児童の学びの姿

#### 主体的な学び

- ・教師の方を見て始めの歌や読み聞かせを聞いたり、いちごの香りを嗅いで笑ったりした。

#### 対話的な学び

- ・教師の言葉掛けや動き掛けを楽しみ、笑顔や発声、手の動きで気持ちを表した。

#### 深い学び

- ・読み聞かせやお話遊びが進むにつれて、顔や手の動きが活発になり表情が豊かになった。スイッチに進んで触れようとする様子が見られた。

## 年間を通した児童の変容

単元(題材)構想シートの今年度の重点目標について、これまでの学習の様子を映像で振り返った。以下のように、児童の変容を共有した。(詳細は資料③記録参照)

- 主体的な表出が増えた。
- 教材の工夫や姿勢の安定により、教材や活動に気付き注目したり、手や体を動かしたりすることが増えた。言葉を意識する様子が見られるようになった。
- 教師との学習を楽しみ、期待感をもつようになった。



## ミニ研修会「絵本を語る会」

### 協議のポイント

訪問生に国語科で扱った題材（絵本）を、ポイントを絞って紹介し合う。  
 ポイント：①対象者の学部・学年 ②学んだ言葉 ③季節 ④手立て（教材）



### 紹介例

題材（絵本）	対象学年	学んだ言葉（季節）	言葉を学ぶための手立て
「おおきなかぶ」	小学部1年	「うんとこしょ、どっこいしょ」（夏、秋）	言葉に合わせて増えていく登場人物の教材を動かし、かぶの教材を引っ張る。
「3びきのこぶた」	小学部2年	「ふーふーのふー」（春）	言葉に合わせて声を出したり、頭部を動かしたりする。
「もりのおふとん」	小学部3年	「入っていいですか」「どうぞ」（秋、冬）	布団や登場人物のミニ教材でやりとりをする。
「はっけよーい」	小学部4年	「はっけよーい のこった」（春、秋）	言葉に合わせて押し合う。
「さつまのおいも」	小学部5年	「うんしょ、とこしょ」（秋）	言葉に合わせておいもの教材を引っ張る。
「トマトさん」	中学部1年	「すーいすい じゃぶん」（夏）	言葉に合わせて教材の動く様子を見る、一緒に動かす、教材の表情の変化を見る。
「てぶくろ」	高等部1年	「いれて」「いいよ」（冬）	手袋や動物のフェルトマスコットでやりとりする。
「春はあけぼの」	高等部3年	「春はあけのぼ」「夏はよる」「秋は夕ぐれ」「冬はつとめて」（年間を通して）	読み聞かせを聞きながら季節の背景の前で登場人物のペープサートを揺らす。

### 協議から

学んだ言葉はオノマトペや身近に使う言葉を選定していることから、訪問生の言葉による見方考え方の再共有につながった。教科等横断的な視点から、自立活動や特別活動の学習の場にも広げている例も出された。

担任する児童生徒にとっての、国語科の見方考え方を考えたという意見もあった。



### 3 まとめ

#### (1) 成果

##### ① 本校訪問生国語科における、言葉による見方考え方の共有

- ・グループ研究会やミニ研修「絵本を語る会」や授業研究会において、訪問部国語科の、言葉による見方・考え方について協議、共有した。オノマトペや身近な言葉が登場する、言葉の繰り返しが多い絵本を選定していることを紹介し合うことで、扱う題材（絵本）の共有にもつながり、今後の授業改善につながっていく機会となった。

##### ② 主体的対話的で深い学びの視点による、訪問生国語科の授業改善

- ・「授業改善シート」が有効活用されてきている。また、授業研究会の協議においては、主体的対話的で深い学びの視点からの意見が活発になっていった。①本校訪問生国語科における、言葉による見方・考え方の共有についても、協議を深めることにつながっていった。

##### ③ チームによる授業改善

- ・訪問生の指導は教師と1対1対応の個別指導である。複数の目で対象児の実態を見取り、指導内容を意見交換できるようPDCAサイクルによる授業改善をした。
- ・I期では、「単元（題材）構想シート」を活用し、題材、目標、指導内容を、段階によってチーム1にチーム2のメンバーを加えて検討し、さらに多くの意見を反映させ授業改善をした。「単元（題材）構想シート」をチームで有効活用することで、「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「授業のねらいの共有」など、授業デザインや計画の見直しが進んだ。
- ・夏季休業中に行った研修「絵本を語る会」は、抽出した言葉や、その言葉を学ぶための手立てをチーム全員で紹介し合い、国語科の見方・考え方を再共有した。
- ・I期や夏季研修を経て、II期では題材における言葉の選定への意識が高まった。また、「指導計画の組み立て」「目指す姿への評価」など、授業の方向性を考える視点が強化された。「単元（題材）構想シート」を用いた検討会后、授業を見合う会を設定することで、病棟内における医療面の環境や配慮事項、年間の児童の変容を共有することにつながった。さらに、教育専門監より年間を通じて協議の参加や助言をいただくことで、チーム全員で国語科の授業改善の力が高まった。

#### (2) 課題と次年度に向けて

##### ① 訪問部国語科の「授業改善シート」、「単元（題材）構想シート」の活用

- ・この2か年で手掛けた訪問部国語科の授業改善力を高めていくために、2か年で作成、整理した「授業改善シート」や「単元（題材）構想シート」を受け継いでいく。また、教科等横断的な視点を持ち授業改善に取り組んでいく。その際には、「自立活動シート」を活用した実態把握を基本に進めていく。

##### ② 訪問部国語科で扱った題材一覧を作成と活用、全校への発信

- ・昨年度も作成した訪問部国語科で扱っている題材（絵本）を一覧にし、活用していく。また、「絵本を語る会」で紹介し合った学んだ言葉、言葉を学ぶための手立てを整理した全校へ発信していく。

##### ③ チームでの連携充実

- ・訪問部では個別対応が多いため、他の教師とチームでの検討をどのように進めるかが、今後も課題である。
- ・「授業を構想する前に対象児童の動画を見て実態を話し合う」など、より具体的な方法を模索する必要がある。

#### 【参考引用文献】

- ・鹿児島大学教育学部附属特別支援学校「見方・考え方一覧表」
- ・国立教育政策研究所「授業改善に向けた「学習者」の視点、「授業者」の視点」
- ・高知県立若草特別支援学校「主体的対話的な深い学びの視点での授業改善シート」

4 資料

(1) 単元（題材）構想シート

訪問部 単元（題材）構想シート

【 部〇年 〇・〇】

目指す姿と今年度の重点目標

学部卒業までに目指す姿	転記（授業者）
今年度の重点目標	転記（授業者）

1 題材名  
授業者、担当

2 題材の目標  
・授業者、担当 【知】  
・ 【思】  
・ 【学】

3 指導内容（総時間 時間）

	学習内容	総	手立て
1	①	1	主〇〇できるように、〇〇する。
2	①	2	対 深 対 深
3	①	2	主 深 対 深

4 添付資料  
授業改善シート「主体的で対話的で深い学びの実現のための学習者の視点と授業者の視点」

3 4 は訪問部グループ全員で検討し記入。

★国語科の見方・考え方（小学部）★

\*【 】は特別支援学校学習指導要領解説教科等編（小学部）との対応を示す。

\* 〇 きらり訪問生に重視したい部分

\* きらり訪問部生用に変換（案）

【P79：言葉による見方・考え方】			
対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方（表し方）等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚（気付き）を高めること。			
見方	〇 言葉の意味 〇 言葉の働き 〇 言葉の使い方（表し方）	考え方	・音として意識する ・聞いて連想する ・想像・イメージする ・類似・相違・種別を判断する ・当てはめる ・組み立てる ・関係付ける・構成する ・比較・対照する ・分析する ・論理的に考える ・選択・選別・抽出する ・推考する

鹿児島大学教育学部附属特別支援学校 見方・考え方一覧表より

(2) 授業改善シート学習者・授業者の視点表

訪問部グループ研究 国語科

主体的で対話的な深い学びの実現

	学習者の視点	授業者の視点	チェック
主体的な学び	1. 見通しをもって期待する	1 学習や活動の手がかりとなるツールや支援 2 理解しやすくするためのパターン化や繰り返し 3 わかりやすいお手本や模範	
	2. 興味や関心をもつ	1 個々の実態に応じた教材や教具 2 興味関心を広げるための教材や教具 3 興味関心、意欲の表出の受け止め 4 疑問や発想を促す発問や仕掛け	
	3. 自分で決める	1 わかりやすい選択肢の提示 2 選択する手段の保障 3 児童生徒の気持ちに寄り添った選択肢 4 自己決定したことの実現	
	4. 自己肯定感を高める	1 ちょっと努力するとできる課題の設定 2 できたことに対する即時評価 3 友達同士で認め合う場面の設定 4 成果が実感できる工夫	
対話的な学び	1. 信頼関係が成立したり深まったりする	1 言葉をかけたり意思を確認したりしてからの活動 2 共感する言葉掛けや丁寧なやりとり 3 話や意見を聞いてもらえる場面設定	
	2. 他者を意識して表出・表現する	1 友達の様子が見えるような座席位置 2 児童生徒の表出・表現の受け止め 3 友達とかかわる場面の意図的な設定	
	3. 他者と共感したり思いを伝え合ったりする	1 児童生徒の表出・表現に応じた働き掛け 2 発表する場面の設定	
	4. 活動や目的を共有する	1 友達と一緒に活動したり、目的を確認したりする場面の設定 2 自分の役割を果たす場面設定	
	5. 教材との対話を通じ、自己の考えをもつ	1 興味関心を広げるための教材や教具	
深い学び	1. 心を動かす	1 本物に触れさせる活動内容 2 五感に働きかける教材 3 児童生徒がワクワクドキドキする教材 4 新しい経験や体験をする場面設定	
	2. 気づいたり発見したりする	1 「あれ」「どうして」と思える場面設定 2 児童生徒の反応、自発的な発信を待つ姿勢 3 学んだことをフィードバックできる場面設定	
	3. 自分で考え工夫する	1 意図的に支援や介入、ヒントを減らす 2 児童生徒が少し困る状況を設定	
	4. 知っていることや学んだことを関連付けて考える	1 学んだことを（自分の言葉等で）表現し直す活動の設定 2 学習成果を発表する場面設定	

◎本時で重点とする項目 ○本単元で重点とする項目

小1 ○・○「 題 材 名 」
-----------------

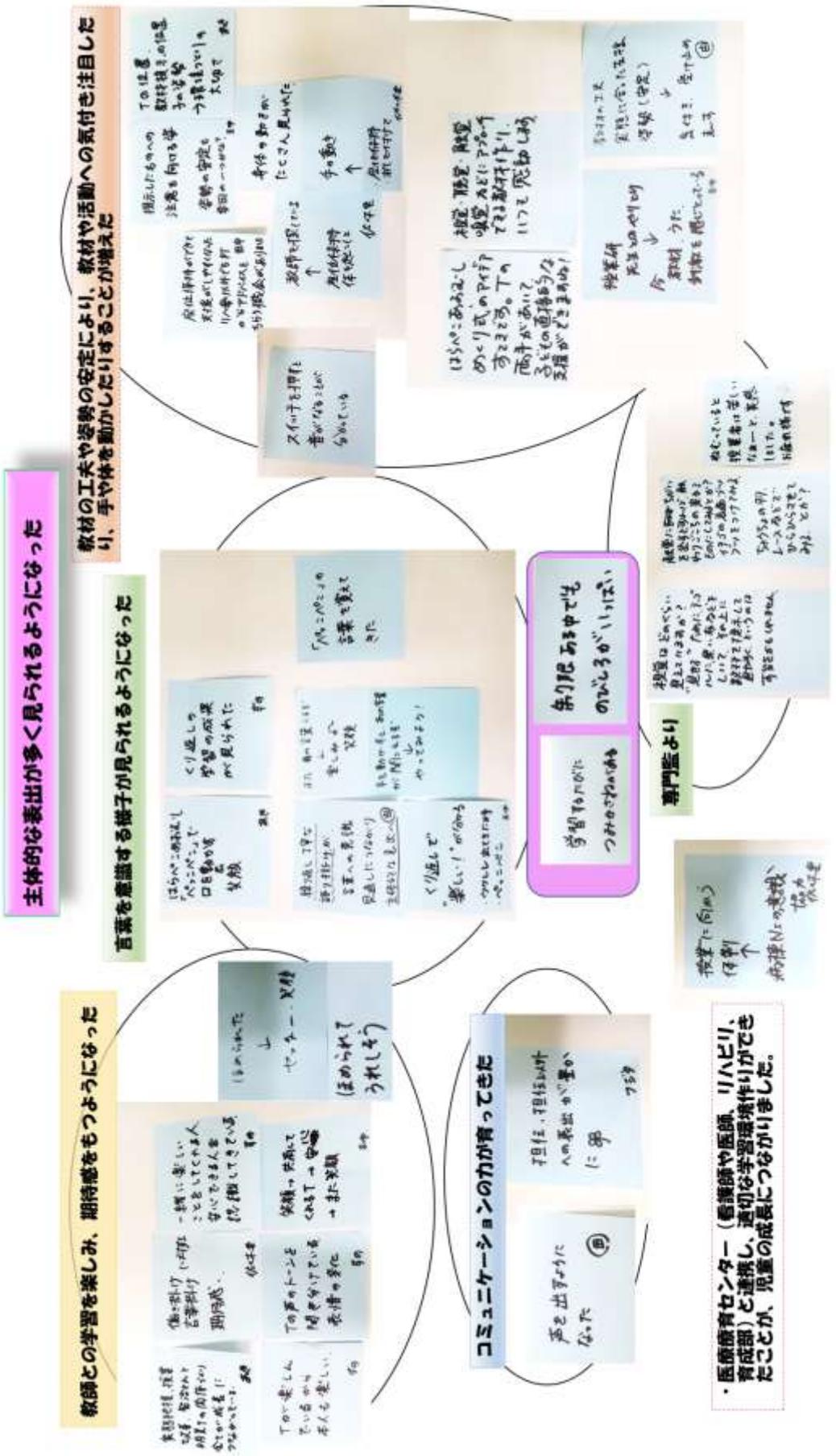
(3) グループ研⑩協議記録 (年間を通じた児童生徒の変容について、映像で振り返り、評価し合った)

訪問部 グループ研究会⑩

日時：令和6年12月10日 (火) 15:40~16:30  
場所：スクーリング室 司会：藤田 記録：佐々木田

☆ S・T さんの1年間の成長について

3年生まで ・身近な人からの働き掛けに、発声や表情で気持ちを伝えて聞かせる。 ・様々な活動に興味・関心を広げ、笑顔や発声で表現して意欲的に活動する。	今年度の重点目標 ・教師の働き掛けに慣れ、同じ気持ちを表情で表現する。 ・言葉や教師のお話などの活動を受け入れ、楽しんだ気持ちを表情で表現する。
--	--



訪問部

R6年度 国語科題材一覧

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
小1	S・S	「ごあいさつ」「さわってあそぼうふわふわあひる」 「へんしんトンネル」「七夕のおはなし」	「おおきなかぶ」	「いち、にい、サンタ！」 「はらべこあおむし」	「ももたろう」 「ばすまってる」	W・J	「ごあいさつ」「さわってあそぼうふわふわあひる」 「おおきくおおきくおおきくなあれ」「七夕のおはなし」	「おおきなかぶ」	「いち、にい、サンタ！」 「はらべこあおむし」	「もりのおふる」	小2	S・A	「たまごのあかちゃん」「3ひきのこぶた」 「しましまぐるぐる」「かえるびよこびよこ」「かきごおり」
	S・T	「ごあいさつ」「さわってあそぼうふわふわあひる」 「おおきなかぶ」	「はらべこあおむし」	「ももたろう」 「ばすまってる」	「メリーメリークリスマス」 「からすのパンやさん」「おしょうがつバス」「すてきな帽子屋さん」		K・I	「じぶんだけのいろ」 「しろくまちゃんのほっとけーき」	「浦島太郎」 「しろくまちゃんのほっとけーき」	「メリーメリークリスマス」 「からすのパンやさん」「おしょうがつバス」「すてきな帽子屋さん」		「おしょうがつバス」 「すてきな帽子屋さん」	T・Y
小6	K・K	「じぶんだけのいろ」 「しろくまちゃんのほっとけーき」	「浦島太郎」 「しろくまちゃんのほっとけーき」	「メリーメリークリスマス」 「からすのパンやさん」「おしょうがつバス」「すてきな帽子屋さん」	「メリーメリークリスマス」 「からすのパンやさん」「おしょうがつバス」「すてきな帽子屋さん」	中1	S・Y	「むしたちのうんどうかい」 「どしゃぶり」	「トマトさん」	「クリスマスツリー」(創作絵本) 「にわとりかあさん」	中3	T・K	「春のうた」「こんたのおつかい」「わらしべちょうじゃ」「どきん」「もりのなか」「だれかのプレゼント」「ちいさなゆき」 「はびばべほっつん」
	I・A	「にんじんとごぼうとだいこん」 「きょうはだれのたんじょうび?」	「きょうはだれのたんじょうび?」	「わたしのワンピース」	「ゆきのゆきちゃん」		「にんじんとごぼうとだいこん」 「きょうはだれのたんじょうび?」	「パパ、おつきさまとって!」	「いっすんぼうし」				
高1	S・H	「十二支のおはなし」 「きたかせとたいよう」	「にんじんとごぼうとだいこん」 「きょうはだれのたんじょうび?」	「パパ、おつきさまとって!」	「いっすんぼうし」	高2	K・K	「十二支のおはなし」 「節分のおはなし」	「パパ、おつきさまとって!」	「いっすんぼうし」	高3	S・Y	「春はあけぼの～春編～」 「春のうた」
	Y・K	「春はあけぼの～春編～」 「春のうた」	「春はあけぼの～夏編～」 「春はあけぼの～秋編～」	「春はあけぼの～冬編～」 「まっかな秋」	「ゆき」「雪の朝」		「春はあけぼの～夏編～」 「春はあけぼの～夏編～」						

# Ⅲ 各種研究大会発表

第70回全国肢体不自由教育研究協議会（熊本大会）

一関 留美子

第62回東北地区肢体不自由教育研究大会（宮城大会）

加藤 俊之

## 「子どもの主体的な姿を目指した自立活動の実践」

～外部専門家との連携を通して～

秋田県立秋田きらり支援学校 教諭 一関 留美子

### 1 はじめに

#### (1) 本校の概要

本校は、「あきた総合支援エリアかがやきの丘」にある肢体不自由を対象とした特別支援学校である。平成22年4月に視覚障害、聴覚障害と肢体不自由が、一つの建物を共有し、秋田県立医療療育センター（肢体不自由児施設及び重症心身障害児施設の機能を有する病院）が隣接している。

現在、全校100名（小学部51名、中学部20名、高等部29名）の児童生徒が在籍しており、小・中学校、高等学校に準ずる教育課程（Ⅰ類型）、知的障害代替の教育課程（Ⅱ類型）、自立活動を主とした教育課程（Ⅲ類型）で編成されている。また秋田県立医療療育センターや自宅への訪問指導も行っている。

秋田県立医療療育センター（肢体不自由児・重症心身障害児施設）から本校に通学している児童生徒は、およそ全体の40%を占める。

	小学部	中学部	高等部	合計	割合
通学生	32名	15名	9名	56名	56%
センター生	18名	4名	18名	40名	40%
在宅・訪問生等	1名	1名	2名	4名	4%
合計	51名	20名	29名	100名	100%

表1：本校の児童生徒数(R6.8.2)

#### (2) 外部専門家との連携

秋田県立医療療育センターには、作業療法士（以下OT）理学療法士（以下PT）、言語聴覚士（以下ST）が勤務している。また、秋田県立医療療育センターに入所している児童生徒に放課後、学習支援を行う育成部の職員が勤務している。

医師、看護師、リハビリテーション部職員（OT・PT・ST）、育成部職員、学校職員が連携し、医療と教育の両面から児童生徒の思いや願いを達成するために、効果的な支援方法を協力して探している。連携の一環として以下の機会を設定している。

##### ① リハビリテーション参観

- ・本校職員が秋田県立医療療育センターに赴き、児童生徒のリハビリテーションの様子を参観する。
- ・年2回実施（夏・冬）：連携実績 57件実施（R5年度）

##### ② 外部専門家※支援

- ・外部専門家が学校に來校し、授業参観を通して専門的な見地から教師に助言を行う。
- ・各月ごとに外部専門家支援の期日を設定している。
- ・「連携シート」を活用し情報交換を図っている。
- ・連携実績 90件実施（R5年度）

※外部専門家は、リハビリテーション部のOT、PT、ST、視覚支援学校に在籍している視能訓練士（CO）を指す。

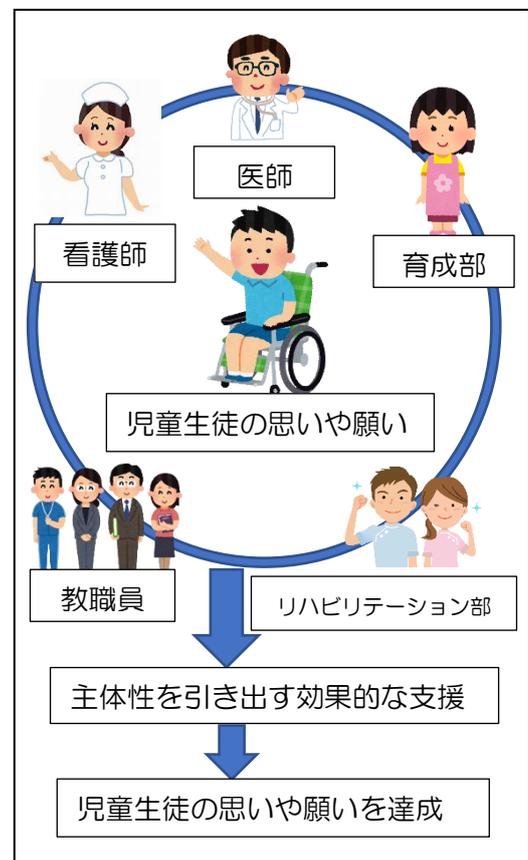


図1 <秋田医療療育センターとの連携図>

## 2 研究の目的

児童生徒が、それぞれの障害の状態や発達段階に応じた自己の困難さを主体的に改善克服し、よりよく生きていくためには、どのような支援があるのかを外部専門家を活用した授業実践を通して考える。

## 3 研究の内容・方法

児童生徒の主体的な姿を引き出すために、以下の3つの観点から授業を組み立て実践する。

- ①児童生徒の困り感や願いとその背景を明らかにする。
- ②実態把握を行い、児童生徒の願いや困り感が改善・克服できる方法を「児童生徒の得意なこと・好きなこと」を通して考える。
- ③外部専門家や教育専門監などを活用し、支援の方法を複数の目で検討する。

[実践例1 <小学部：Aさん>]

「環境の把握」 ○感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること  
○認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること  
「コミュニケーション」 ○言語の受容と表出に関すること

【児童の実態】

児童名	実態	本人の願い	目標	学習内容
Aさん 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚障害</li> <li>・中枢性運動障害</li> <li>・コミュニケーション手段は、単音の発声やタッチなどで表出する。</li> </ul>	<p>&lt;担任の願い&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分から意思表示できるようになってほしい。</li> <li>・右、左の位置感覚が分かってほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な人と関わろうとしたり、他者との関わりを通して関わる楽しさを感じたりする。</li> </ul>	<p>&lt;スイッチ教材を活用した挨拶&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自立活動</li> <li>・教育活動全般</li> </ul>

小学部2年生のAさんは、視覚に障害があるが目の前の物の存在は感じている。1年生のときは、生活経験が乏しいために、受け身になりがちで、自分からの意思の表出はほとんど見られなかったが、2年生になり、教師や友達の話をよく聞いていたり、発声や身振りで「Yes」「No」の意思表示をしたりするようになった。また、「右」「左」の言葉に対しても顔を向けたり挙手したりする行動が見られる。このことから、Aさんの表出の幅が広がれば、今後の生活においてより経験を広げることができるのではないかと考えた。

### 1年生時の作業療法士（OT）からのアドバイス

- ・本人の運動方向や物の位置を理解しやすいように教材はできるだけ同じ場所に固定する。連携シートから抜粋

### <主体性を促す教材教具の工夫>

- ・左右の選択で意思表示ができるように、スイッチからの言葉を固定し、二者択一のやり取りの機会を増やす。
- ・状況に合わせて教師がタブレット端末に映される内容を変更し、成功体験が積み重なるようにする。

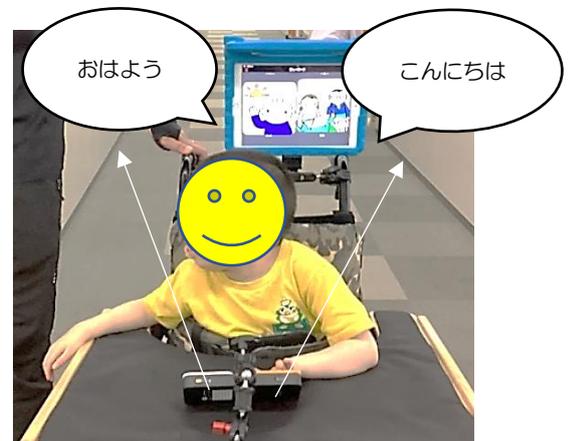


図2 表出のためのスイッチ教材

【結果】「おはよう」「こんにちは」等、相手から話し掛けられた挨拶に応じて、左右のスイッチを選択し応えるようになった。状況に合った応答は概ね6割であるが、本人からの表出が即時評価されることで押す回数も増え、やり取り時には笑顔も見られる。今後は視能訓練士（CO）との連携も考えている。

[実践例2 <高等部：Bさん>]

- 「身体の動き」 ○姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関すること  
 ○作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること  
 「コミュニケーション」 ○状況に応じたコミュニケーションに関すること

【生徒の実態】

生徒名	実態	本人の願い	目標	学習内容
Bさん 	・福山型先天性筋ジストロフィー症の為、年々筋力が低下している。それに伴い、書字、食事等は以前のようにできなくなってきている。	・人と関わりたい。 ・トラックパッドを利用して、タブレット端末を使用したい。 ・数学と作業の勉強を頑張りたい。	・適切な運動と補助具により自分でできることを増やす。 ・人と関わる機会や気持ちを伝える場面の経験を重ねコミュニケーション力を高める	<朝の会、作業学習等でのタブレット端末の活用> ・作業販売 ・朝の会 学校生活全般

高等部3年のBさんは、福山型先天性筋ジストロフィーと知的障害を併せもつ生徒である。平仮名を一文字ずつ拾い読みできたり、学校生活においてよく使用されている漢字は意味を理解し読んだりする。筋力の低下とともに、自力で肘を上げることは難しいが、担任が肘を持ち上げると、手首を動かして平仮名を一文字ずつ書く。

タブレット端末の操作については、座位保持装置で姿勢を保持しているため、手元を見て操作することが難しいため、トラックパッドを活用している。タブレット端末を使用する際は、指先でポインターを動かし、タップで選択することはできるが、細かな操作は難しいためアクセシビリティで本人に合わせた設定を行うことで、ダブルタップやドロップ、ドラッグ等の様々なことができるようになった。

作業療法士（OT）からのアドバイス

※連携シートから抜粋

- ・タブレット端末の画面より大きな画面が見やすい。
- ・手元を見るのは難しいためトラックパッドを使用する。モニターの設置場所は、目の上位置より上下10cmであれば見る事が可能である。



よく見えて操作しやすくなった。

<主体性を促す教材教具の工夫>

- ・見えやすいモニターの場所を生徒と確認して設置した。
- ・スイッチコントロールやSiriの活用

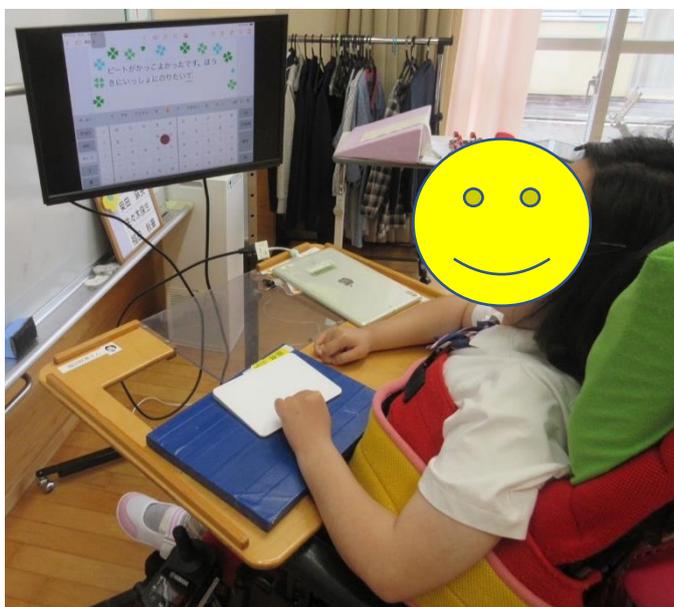


図3 <お礼状を書いている様子>  
 ～トラックパッドを操作しているBさん～

【結果】

学校生活においては「自分でできる」「やりたい」という発言が増え、今まで教師に依頼していたことも自分で取り組もうとする姿が見られる。OTからモニターの活用や、指をスムーズに動かすための体操についてアドバイスをいただいたことで、よりスムーズに操作できるようになった。

学校で学んだことを、家庭でも生かす場面があり驚いていると、保護者からうれしい報告もあった。

[実践例3 <小学部：Cさん>]

「身体の動き」○姿勢保持と運動・動作の補助手段の活用に関すること  
○作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること

【児童の実態】

児童名	実態	本人の願い	目標	学習内容
Cさん 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・脳性麻痺で手先を使った細かい作業に苦手意識がある。</li> <li>・左右の手の力の差があり、定規がずれてしまう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定規で真っ直ぐ線を引きたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体の動きに合った教材を工夫し、繰り返し取り組むことで、自分でできることを増やす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;教科学習における定規の活用&gt;</li> <li>・教科書のアンダーライン引き</li> <li>・算数/図工/家庭科</li> <li>・定規の使い方</li> </ul>

小学部5年（R5年当時）のCさんは、脳性麻痺のために手先を使った作業に苦手意識があったが、「定規で真っ直ぐ線を引きたい」という願いがあった。しかし、右手の力が強く、左手の力が弱いため力加減がコントロールできず、定規がずれてしまうことがあった。本児童と担任とで、試行錯誤しながら、市販の定規の裏に磁石を貼ったものとステンレス板の貼られた斜面台の利用を試み、使いやすい定規を考えた。この定規の使用にあたっては、外部専門家支援を活用しOTからアドバイスを受けた。

作業療法士（OT）からのアドバイス

- ・定規を押さえる左手の位置を、定規の真ん中（スタートの点とゴールの点の間）にする。
- ・体が前傾しないように、斜面台の位置を机の端から5～8cmとする。
- ・定規の磁石の厚さで、紙の間に隙間ができてしまい、線を引くことが困難となっているので、滑り止めシールを薄く伸ばして使用するのはいかがでしょうか。

※連携シートから抜粋



滑り止めシールは紙の上で定規を動かしにくい。

<主体性を促す教材教具の工夫>

- ・隙間ができないように、マグネットを裏面ではなく、表面に貼った。
- ・マグネットを定規の表側に9個貼ったが、磁力が弱く18個貼ることで安定した。



図4 <補助具付き定規>  
～定規を使って線を引くCさん～

【結果】

Cさんは線を引くときに以前のように「先生、定規を押さえてください」といった依頼がなくなった。自分で真っ直ぐ線を引いたときは、とてもうれしそうである。OTに認められたことで、ますます定規を使うようになった。また、適切な指の位置など気を付けることでコツをつかみ、現在はこの補助具付きの定規を使わずとも、時間はかかるが市販の滑り止め付き定規で直線を引くまでに至っている。

4 考察

研究の方法の3観点に沿って、実践を行うことで次のようなことが分かった。主に①と②※では、児童生徒自身が自分の困り感からくる願いを認識することで、自己理解が図られ、主体的に取り組もうとする姿勢が見られた。③※に関しては、外部専門家と学校内外での児童生徒の実態を共有でき、指導の方向性を確認することができた。これらの実践から、学校と医療が互いに連携し関わることで、自立活動で行っていることが学校内だけでなく、児童生徒自身の生活をより良くするための指導へとつながっているとと言える。※「3 研究の内容・方法」を参照

「夢や願いの実現に向けて行動する力」を高めるための指導・支援  
 ～ 生徒の実態に応じたキャリアノートの活用を通して ～

秋田県立秋田きらり支援学校  
 教諭 加藤 俊之

1 はじめに

本研究では、知的障害を併せ有する肢体不自由児の「夢や願いの実現に向けて行動する力（行動力）」を高めるため、キャリアノートを活用した指導・支援の方法を検討した。肢体不自由児は、身体的・社会的な制約により、自分の能力を十分に発揮できないことが多い。そのため、自己評価が低くなり、将来の夢や願いをもちにくい傾向がある。本校の生徒にも同様の課題が見られ、初めて体験することに消極的になり、やりたいことを諦めてしまうことがある。そこで、本研究では、人の行動が変わる過程を五つの段階に分けて考える「行動変容段階モデル」を参考にした指導計画を作成し「夢や願いの実現に向けて行動する力」を高める指導・支援を系統的に行う。また、その計画を基に、教師が生徒の夢や願いの実現に向けた行動変容段階を見取り、その時期に応じてキャリアノートを用いて対話的に関わる。これらにより、生徒の「夢や願いの実現に向けて行動する力」が高まると考える。

2 実践

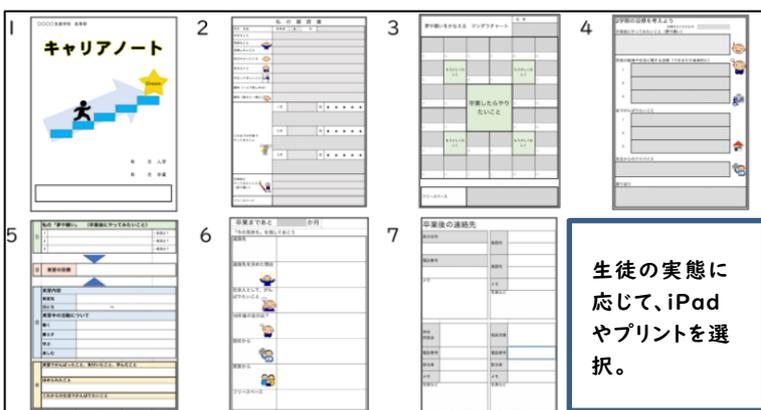
(1) 行動変容段階モデルを活用した指導計画の作成と活用

行動変容段階モデルを用いることで、生徒の行動力を詳細に見取ることができ、ねらいを明確にした授業や対話的な関わりができるようになった。

(2) キャリアノートのカスタマイズ

対象生徒の個別の教育支援計画等を参考に、キャリアノートの活用を通して育みたい力を「自己理解・自己肯定」「かかわる力」「将来設計」の三つにまとめ、内容・項目を検討した。それらを、行動変容段階の支援目標とキャリアノート『あきた DE ドリーム』を基に整理し、「私の履歴書」等を作成した。

行動変容段階	無関心期	関心期	準備期	実行期	維持期
夢や願いの実現に向けた支援目標	・自分が何に関心があるのかを考えられるようにする。	・自分の夢や願いについて考え始められるようにする。 ・自分の夢や願いを見付けられるようにする。	・夢や願いを実現するために何をしたらよいか分かるようにする。 ・目標や計画を立てられるようにする。	・目標や計画に基づいて行動できるようにする。	・目標達成に向けて、計画を修正しながら、行動できるようにする。
本題材における期待する生徒の姿	・自分の好きなこと得意なことなどが分かる。	・「夢や願い」をもつ。 ・友達の「夢や願い」は何だろうと興味をもつ。	・「夢や願い」に近づくために必要なことを考えたり、調べたりする。 ・「夢や願い」に近づくための目標や計画を立てる。	・キャリアノートに書いた計画を実行する。 ・自分の行動を振り返り、キャリアノートに記載する。	・「夢や願い」の実現に向け、目標や計画を修正したり、修正した目標や計画に沿って行動したりする。
支援内容	「夢や願い」の実現に向けた動機付けを支援 ・「私の履歴書」を書こう		「夢や願い」の実現に向けた行動を支援 ・学年、学期の目標設定 ・校内・現場実習の目標設定		
行動変容の各段階に応じた指導計画の例	・「夢や願い」をかなえるマンダラチャートを書こう		・学年、学期の振り返り ・校内・現場実習の振り返り		
※「私の履歴書」「夢や願い」をかなえるマンダラチャート」「学年の目標設定」の題材は、年度初めに実施する。その他の題材は、各題材の内容に沿った時期に実施する。					



### (3) キャリアノートを用いた指導の実際

#### ① 私の履歴書を書こう

自己理解を深め、「夢や願い」を明確にするための教材として、「私の履歴書」を活用した。自分が何に関心があるのかを書き出し、その後、卒業後にやってみたいことを考えた。美術展等の受賞歴、取得した資格、学んできたことなどを振り返り、整理することで、それを基に自分の強みや興味・関心を考えることができた。「好きなことは読書だけだと思っていたけど、自分のことを改めて考えてみると話すことも好きだった。」「ちょっとずつ自分のことが分かってきた。」と、自己理解の深まりがうかがえる発言があった。検証授業前後で比較すると、生徒がキャリアノートに記入した「夢や願い」は、「誰と」「何をするか」などが明確になり、具体的なものになった。

学年・名前	高等部 3 年	●●●●
得意なこと	なんでもやってみようと思う力	
好きなこと	読書・ドラマ鑑賞	
得意なこと	iPad操作	
自分のよいところ	気遣いができる。	
苦手なこと	数学 時間に間に合うようにいく	
手伝ってほしいこと	トイレの介助 買い物のお金をだすこと	
趣味（一人で楽しめる）	歌を聴く・読書・ドラマ鑑賞	
趣味（誰かと一緒に）	図書館に行く・友達と話す	
	1年	エコグリーン 配 ★★★★★
	セルトレイが一つできるくらい。	
	2年	織製 配 ★★★★★
これまでの作業でやってきたこと		

#### ② 「夢や願い」をかなえるマンドラチャート

「夢や願い」の実現に向けて「何をしたらよいか」を考える教材としてマンドラチャートを活用した。また、「一人できる」「いっしょにがんばる」等の項目も選択できるようにし、できないことがあったときにどう対処するか、その考え方も支援した。授業の導入時の生徒とのやりとりと、振り返りでの生徒の発言を比較すると、「できないから」と自分の夢や願いを諦めるような消極的な発言から、「できるかもしれない」「やりたい」と、可能性や意欲を示す発言に変わった。

母に御所野イオンに連れて行ってもらう	3人のお揃いのものを選ぶ	買う	お土産を買っていく
やってみよう	一人できる	いっしょにがんばる	いっしょにがんばる
●●さんも誘う	遊びに行く場所	カフェに行く	お母さんの車
一人できる		やってみよう	やってみよう
一緒に●●さんのいえに行く	カフェに行って3人でお茶をする。	友達と泊まったり遊びに行ったりする。	
やってみよう	いっしょにがんばる		
予算通り見積る	注文する		
やってみよう	一人できる		

#### ③ キャリアノートを活用した教師の対話的な関わり

授業中の教師の発言を整理したところ、資料のように五つの項目に分類できた。「発言を認め、共感する言葉掛け」は、生徒たちにとって安心して発言できる環境設定に効果的だった。不安なときに沈黙する傾向にある生徒たちだが、自分自身を語る発言が、この授業では多くなった。「考えを深め、広げることを意図した発問」や「提案、方向付け」は、実現に向けた具体的な行動を考える上で有効だった。

検証授業における教師の言葉掛け	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発言を認め、共感する言葉掛け 「〇〇が、すごくいいですね。」</li> <li>・ 考えを深め、広げることを意図した発問 「どうして?」「具体的には?」「他には?」</li> <li>・ 提案、方向付け 「〇〇も、いいかもしれませんね。」</li> <li>・ 生徒の発言の確認、意味付け 「〇〇は、△△ということですか?」</li> <li>・ 動機付け 「夢は広がるね。」「是非〇〇してね。」</li> </ul>	

### 3 まとめ

検証授業実施前、対象生徒らは、卒業後の生活に関する具体的なイメージが十分でない状態にあった。キャリアノートを活用した一連の授業を通して、生徒たちは、自己理解を深め、「夢や願い」を見付け、その実現に向けた具体的な方法を考えることができた。また、キャリアノートに記載した内容は、普段の学習や現場実習の目標設定にも反映させることができた。「夢や願い」と日々の学習、卒業後の生活との関連性を意識させる上でも有効に活用できた。この結果、生徒たちの「夢や願い」の実現に向けた動機付けが高まり、自分から行動する姿へとつながった。対象生徒と関わりのある職員は、生徒たちを「たくましくなった」「前向きになった」「自分で考えようとするが増えた」などと評価している。夢や願いが明確になることで、できることに目を向け、自分から行動しようとする姿が、日々の生活の中でも増えていると考えられる。

## あとがき

数年ぶりの寒波に見舞われた今年の冬。秋田県としては冬らしい冬と言えるかもしれませんが、暖冬に慣れてしまった私は、除雪や雪道の運転をつらく感じてしまいました。皆さんの地域はいかがだったでしょうか。

さて、今年度の研究テーマは「肢体不自由及び病弱教育の主體的・対話的で深い学びの授業づくり～単元（題材）構想シートを用いたチームで取り組む授業改善～」(2年/2年)です。

昨年度は、「単元（題材）構想シート」を用いた「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点での授業づくり、「自立活動シート」を用いた自立活動の視点から各教科の目標達成に向けた手立て等の検討をしました。

研究2年目である今年度は、昨年度の成果や課題を引き継ぎながら、「チームでの授業づくりと授業改善」に重きを置いて取り組みました。本校の3つの類型と訪問部の4グループを基本としながら、必要に応じて教育専門監等も入って、チームで授業づくりを進めました。気軽に授業を見合う機会を設けたり、「研究ラボ」というWeb ページで授業の動画や資料を自由に閲覧できるようにしたりしました。また、SchoolWare の会議室機能を活用して進捗状況を報告するなど、他の研究グループの取組について全員が確認できるようにしました。

本校は児童生徒の実態から、一つの授業を行う教師の人数が多くなりがちです。教師の人数が多くなると、児童生徒のねらいや手立ての共通理解や教師の役割分担に課題が出てくることがあります。授業を行う教師全員が同じ方向を向いて、「チーム」として授業づくりをしていくことの大切さを改めて確認できた今年度でした。

来年度からは、新しい研究テーマで研究を進めていきます。時代がめまぐるしく変化する昨今、これまでの慣習にとらわれず、新しい視点を取り入れていくことが必要となるかもしれません。しかし、これまでの「慣れ」を見直し、基本に立ち返ることも大切にしていくことの一つではないでしょうか。引き続き、児童生徒一人一人が「キラッと」輝く授業作りを目指して、全教職員でまい進してまいります。

最後に、授業研究会等で御指導や御助言をいただきました関係各位の皆様より衷心より感謝申し上げます。併せて本書を御高覧いただきました皆様より忌憚のない御意見、御指導をいただきますようお願い申し上げます。

副校長 高橋 省子

令和6年度 秋田県立秋田きらり支援学校 研究同人

校長 松井 智子  
副校長 高橋 省子  
教頭 佐藤 茂樹  
教諭(兼)教育専門監 藤井奈緒子 近江 美歩 藤原恵理子  
研究主任 小嶋 聖  
学部主事 吉崎 真紀 平川 裕子 工藤 裕子  
ICT推進リーダー 跡部 耕一

I 類型 (準ずる教育課程)

○伊藤 咲子 神田 優子 山本 泉子 蔭山佐智子 安宅 梢絵 高橋 葉月  
平井 健一 小林 紀子 菊地真智子 小林佐知子 鈴木亜希子 小野寺珠貴  
シャトルワース沙也佳

II 類型 (知的代替の教育課程)

○伊藤 陽子 久保 妃香 白瀬 喬彦 鈴木 陽 北嶋 初美 筒井 清子  
佐々木雅子 福田 純悦 森田紗也子 佐藤 昭子 菅 一聡 神部 直子  
菅 優子 加藤 裕美 佐藤 剛大 小柳みなみ 一関留美子 柳田 栄基  
熊谷 好 本城谷 薫 佐川 祐子 加藤 俊之 佐藤友紀子 鈴木 雄裕  
千葉 翠子 小野 恵里 戸松 伸悟 永井 英男 武田 奈穂 塩野谷あおい  
加藤 美鈴 佐藤 友香 廣川 佳世 保坂まゆみ 鎌田 雄太 門間 洋平  
館山百合子 伊藤 和樹 荻原 正賢

III 類型 (自立活動を主とした教育課程)

○大川留美子 金子みさ子 藤原 伸 目黒 敦子 菊地 真美 高橋 圭  
加藤 豊 高橋 聡 長谷恵美子 神居 麻恵 高橋絵里香 藤本 敦子  
新保谷 芽 北原 桃子 原田穂乃佳 佐々木理恵 池田 和 新岡 航平  
田村祐貴子 柏崎久美子 柴田 法子 津田 徹男 宇佐美尚美 秋山フサ子  
守屋由紀子 高橋 俊英 北條 幸恵 熊地 需 加藤 深湖 高橋 朋子  
葛西 輝美 虻川 拓史 飯澤 朋子 福田英美子 上田 純子 相場眞里子  
山中 征子 縄田屋美幸 梶原 大河

訪問部 (自立活動を主とした教育課程)

○藤田亜樹子 佐々木里枝 田中 明美 藤井 真由 高橋 亜紀 簾内香緒里  
伊藤 晃子 佐々木由美子

○は研究チーフ

養護教諭 栄田 優子 藤原 幸子 山影 悠

表紙：「あきたいぬだー」

あーと展覧会2024 最優秀賞作品

# き ら り

令和6年度研究紀要（第15集）

研究主題

**肢体不自由及び病弱教育の主体的・対話的で深い学びの授業づくり  
～単元（題材）構想シートを用いたチームで取り組む授業改善～**

発行年月日 令和7年3月

発行所 秋田県立秋田きらり支援学校

〒010-1409

秋田県秋田市南ヶ丘一丁目1番1号

TEL 018(889)8573

FAX 018(889)8575

ホームページ <http://www.kagayaki.akita-pref.ed.jp/kirari>

メールアドレス [kirarisien@akita-pref.ed.jp](mailto:kirarisien@akita-pref.ed.jp)